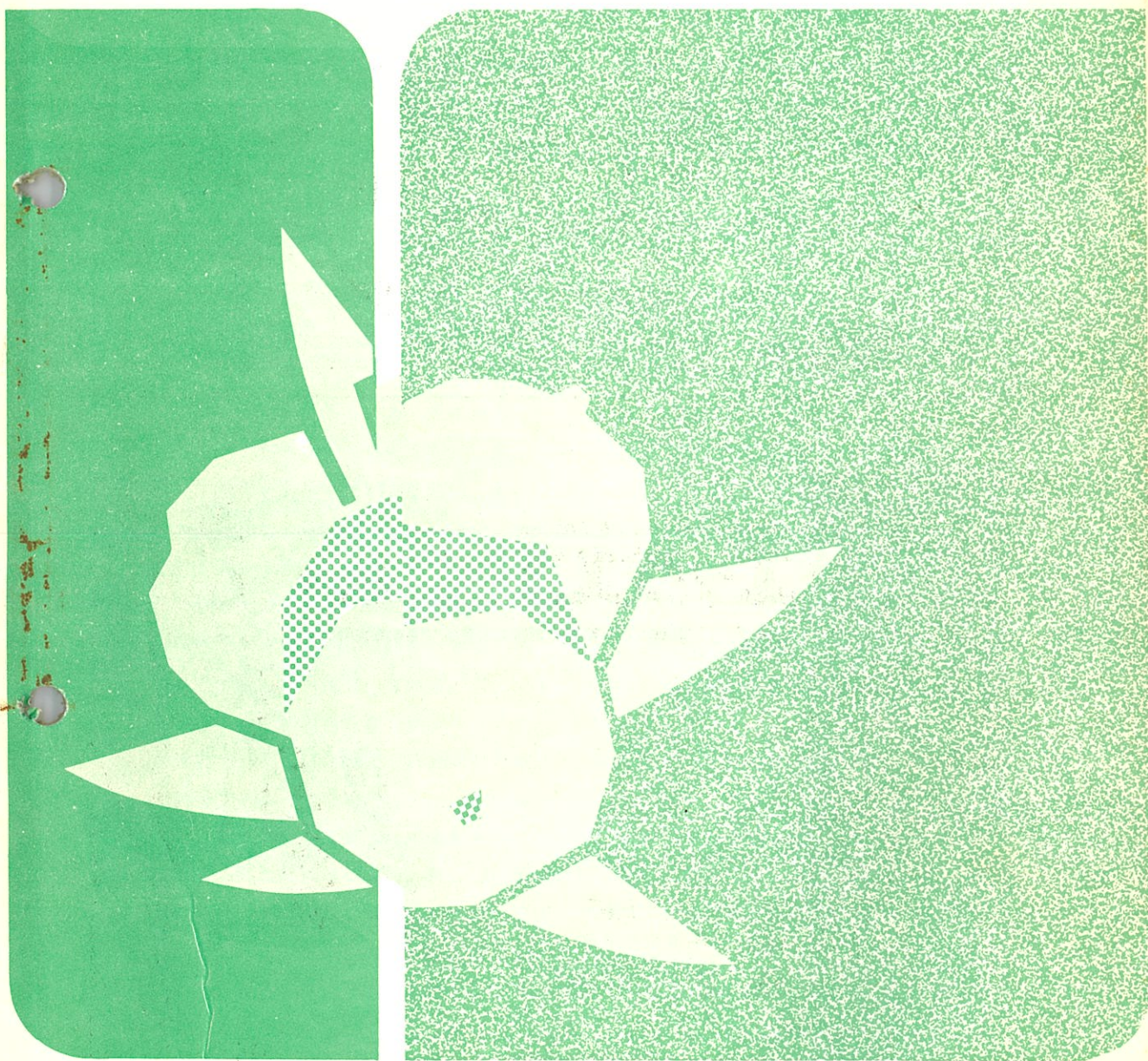


植調

第8卷第1号



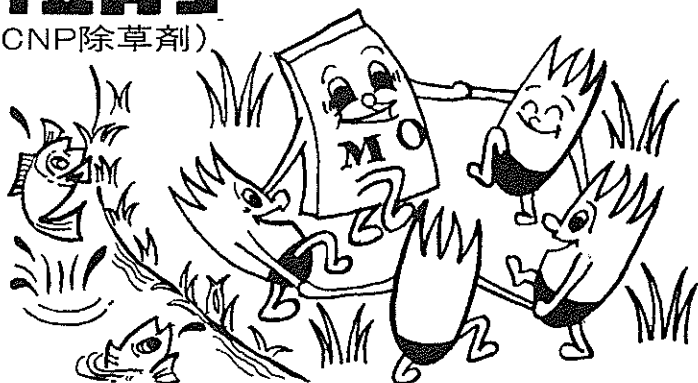
財団法人 日本植物調節剤研究協会編

安全でよく効く!

——水田除草剤——

MO粒剤

(CNP除草剤)



MO普及会

取扱会社 クミアイ化学、三共、北興化学、八洲化学、日本農薬、サンケイ化学
事務局 東京都千代田区霞が関3-2-5(霞が関ビル)三井東圧化学株式会社内

効きめのながい
エックスゴーニ粒剤

エックスゴーニ粒剤は、皆様のご期待にお応えできる除草剤です。

新しい
水田除草剤

田植の
前後に

エックスゴーニ協議会



日本農薬株式会社
〒103 東京都中央区日本橋通1-2-5



石原産業株式会社
〒550-01 大阪府西区江戸堀1-11-11

- ◎殺草力が強く、そのうえ抑草期間が長いので普通移植栽培はもちろんのこと、稲苗移植栽培にも最適です。
- ◎処理適期の幅が広く、ノビエ・カヤツリグサ・一年生の広葉雑草からマツバイまで高い効果を発揮します。
- ◎人畜・魚貝類に対する毒性も低く、稲におよぼす影響もほとんどないので安心して使えます。



03 農薬のシンボルマークです

運

先年、田植前後処理の新しい除草剤が普及されることになった。この除草剤は処理適期幅がせまい上に、散布期が田植えの労働ピークと重なる点、試験場関係者の普及見通しは、むしろ悲観的であった。この薬剤の普及初年目は田植時期に厳しい低温に見舞われ、指導機関は稲の生育遅延の恐れがあることから、除草剤の散布を極力控えるよう農家に呼びかけた。結果は危惧したとおりであったが、問題の除草剤は被害もなく安定した効果を示した。この薬剤は、その後台頭してきた稚苗移植栽培と結びついて新しい利用場面を展開した。偶発的な低温といい、稚苗栽培とのタイミングといい、この除草剤は一見運のいい除草剤である。あの低温がなかったら、これだけ順調な普及をみたかどうか。勿論、この除草剤が他にない優れた特性をもっていることは事実としてである。

「運のよいのも実力のうち」という言葉があるが、これはその例かも知れない。もっともメーカー側は実力があつたから当然と考えているかも知れないが。プロ野球の監督は、ピンチヒッターを選ぶのに、ツキのある選手を選ぶというし、またベンチに控えている選手の中で昂然と顔を上げている者を選ぶともいう。われわれは住住ツキのなさを嘆きがちである。

農業が良いにつけ悪いにつけ、われわれ試験研究機関への注文や批判が多い。これには謙虚であらねばならないが、そのため意気消沈していたのでは、本当の運まで逃げてしまう恐れがある。運命の女神も女性とあれば、案外面くいかも知れないからである。

(農林省北海道農業試験場 升尾洋一郎)

目 次

(第8巻第1号)

米田における奨励除草剤について

＜農林省九州農業試験場 芝山秀次郎＞

1. はじめに…………… 2
2. 作物および目的別奨励除草剤………… 2
3. おわりに…………… 16

昭和48年度茶園関係除草剤・生育調節剤試験成績概要

＜農林省茶業試験場 青野英也＞

- I. 除 草 剤…………… 18
- II. 生育調節剤…………… 19

昭和48年度落葉果樹関係除草剤・生育調節剤試験成績概要

＜農林省果樹試験場 山崎利彦＞

- I. 除草剤試験成績概要…………… 21
- II. 生育調節剤試験成績概要…………… 22

昭和48年度カンキツ関係除草剤・生育調節剤試験成績概要

＜農林省果樹試験場(興津) 広瀬和榮＞

- I. 除 草 剤…………… 34
- II. 生育調節剤…………… 36

昭和49年度新供試除草剤・生育調節剤一覧表…………… 37

＜財団法人 日本植物調節剤研究協会＞

除草剤使用面積一覧表…………… 58

＜財団法人 日本植物調節剤研究協会＞

米国における奨励除草剤について

農林省九州農業試験場作物第1部 芝山秀次郎

1. はじめに

米国における雑草防除の実態あるいは研究等については、すでに、茨木氏、千坂氏他の方々による、包括的な、すぐれた報告がなされている。さらに、日本からは、毎年、数多くの研究者や除草剤関係者が渡米し、雑草防除に関して、数多くの情報を持ち帰っている。そこで、筆者は、それらの報告との重複は避け、たまたま筆者が滞米する機会を得た1973年の場合に止まって、米国における奨励除草剤、および、とくに主要作物の場合については、除草剤の使用基準を合わせ紹介して、関係者の参考に供したいと考える。

本稿を取りまとめるための資料として用いたものは、米国内で農業上重要な地位を占められると思われ、およそ20州で出された1973年度雑草防除指針、および、米国農務省による雑草防除指針改訂版（Guidelines for weed control, USDA A.H. No 447, 1973年発行）である。また、本稿における薬量は、1ポンド/エーカー $\rightarrow$ 11.2g/aとして換算して載ければ幸いである。

なお、現実の雑草防除手段としては、除草剤の利用という面以外に、耕起や中耕、あるいは、火災除草法等が大きな比重を占めていることを付記しておきたい。

2. 作物および目的別奨励除草剤一覧

1) 水 稲

薬 剤 名	薬 量 A.I. ポンド/エーカー	対 象 雑 草	処 理 時 期	適 要
molinate	3	タヌビエ 他	雑草 26cm以下	湛水直播が主。乾田直播では、湛水後処理。最低5~10cmの水深を保持する。
propanil	3~5 〔反復散布は、 計8ポンドまで 6(3+3)〕	タヌビエ、広葉 他	イネ科：1~41期 広 葉：15cm以下	乾田直播。湛水直播の場合は、排水または浅水とする。処理1~4日後深水にする。殺虫剤との近接散布に注意。 昼温21~38℃、夜温10℃以上で使用
		タデ科、ヒルガオ科、 ツルクサ 他	第1回：雑草5.1cm以下 第2回：5~7日後	

薬 剤 名	薬 量 A.I. ポンド/エーカー	対 象 雑 草	処 理 時 期	摘 要
2,4-D MCPA silvex 2,4,5-T	0.75～1.25	広 葉	イネ分けつ後期 幼穂形成期	ワタ、大豆、果樹等への飛散に注意する。 温度21～32℃で使用
硫 酸 銅	15	藻 類		湛水直播

2) 小麦、大麦およびエンバク（秋播）

薬 剤 名	薬 量 A.I. ポンド/エーカー	対 象 雑 草	処 理 時 期	摘 要
2,4-D MCPA	0.25～1.0 (主として 0.5) 0.2 ～0.5	一年生広葉、セイヨウヒルガオ、マスタート類、他	作物分けつ期～穂ばらみ期	秋期散布はしないこと。 節間伸長期以後は 薬害を生じやすい。
dicamba dicamba+2,4-D dicamba+MCPA	0.25 0.12+0.12 0.12+0.25	タデ類、センノウ類 ソバカズラ 他	春 先	収穫期まで家畜に与えぬこと。
bromoxynil	0.25～0.5	一年生広葉、ソバカズラ 他	作物21～穂ばらみ期	水質汚染に注意する。
diuron	0.8 ～1.6	一年生イネ科、広葉	播種直後～雑草草丈10cmまで	小麦のみ。砂質土壌をさける。また、茎葉を、すぐ、家畜に与えぬこと。
linuron	0.5 ～0.75	#	作物出芽前後	小麦のみ。茎葉を、すぐ、家畜に与えぬこと。
terbutryn	1.2 ～2.4	#	#	# #

3) 大 豆

薬 剤 名	薬 量 A.I. ポンド/エーカー	対 象 雑 草	処 理 時 期	摘 要
paraquat	0.5～1.0	一年生・多年生	播種前	不耕起栽培の場合、他薬剤と混合散布する。
dalapon	3.7～5.5	ジョンスングラス	#	処理3日後耕起する。さらに5日後播種。
trifluralin	0.5～2.0	一年生イネ科、広葉・ジョンスングラス	播種前（土壌混和）	混和深5～10cm

薬 剤 名	薬 量 A.I. ポンド/エーカー	対 象 雑 草	処 理 時 期	摘 要
nitralin	0.5 ~ 1.0	一年生イネ科, 広葉・ ジョソングラス	播種前 (土壌混和)	混和深 2.5 ~ 4 cm
vernolate	2 ~ 3	〃 〃	〃 (〃)	〃 5 ~ 7.5 cm ハマステにも よい。
alachlor	2 ~ 4	一年生イネ科, 広葉	播種直後 ~ 雑草発生前	種子の大きい広葉雑草には効果が うすい。
chloramben	2 ~ 3	〃	〃	〃
linuron	1 ~ 3	〃	〃	〃
naptalam	2 ~ 3	〃	〃	〃
chlorpropham	2 ~ 4	〃	〃	〃
chlorbromuron	2 ~ 4	〃	〃	〃
fluorodifen	3.75 ~ 4.5	〃	〃	〃
chloroxuron	0.5 ~ 1.0	〃	雑草発直後	頭上散布 雑草 5 cm 以下
dinoseb	1.5 ~ 3.0	〃	〃 ~ 大豆開花期	〃 (大豆生長後は, 局部散 布)
linuron	0.5 ~ 1.0	主として, 一年生イネ 科, 広葉	雑草生育期	局部散布を厳密にする。
2,4-DB	0.18	〃	〃	〃
naphtha	1.87 (1/a)	〃	〃	〃
TCA		ジョソングラス 他	〃	スポット処理

注) 現実には, これらを混合散布する場合もある。

例. naptalam + dinoseb (3 + 1.5) (播種直後 ~ 雑草発生前)
alachlor + dinoseb (1.5 ~ 3.0 + 0.75 ~ 1.12) (〃)
paraquat + linuron (0.5 + 0.5 ~ 2.5) (不耕起栽培)

4) 落花生

薬 剤 名	薬 量 A.I. ポンド/エーカー	対 象 雑 草	処 理 時 期	摘 要
benefin	1.12 ~ 1.5	一年生イネ科, 広葉, 他	播種前 (土壌混和)	混和深 2.6 cm

薬 剤 名	薬 量 A.I. ポンド/エーカー	対 象 雑 草	処 理 時 期	摘 要
nitralin	0.5 ~ 1.0	一年生イネ科, 広葉, 他	播種前 (土壌混和)	混和深 2.5 ~ 3.8 cm
trifluralin	0.5	"	" "	" " オクラホマ, テキサスのみ
vernolate	2 ~ 2.5	一年生, ハマスゲ 他	" (土壌混和・注入)	混和深 7.6 cm 一般に, 注入の ほうが良い。
alachlor	2 ~ 4	一年生イネ科, 広葉	播種直後	
chloramben	2 ~ 3	"	"	オクラホマ, テキサスのみ
dinoseb	3 ~ 1.2	"	播種直後~作物出芽期	気温が高いほうが殺草効果大
diphenamid	2 ~ 6	"	"	
naptalam	2 ~ 6	"	"	

注) 現実には, 次のごとき混合散布が多い。

benefin + vernolate (1.1 2 + 2) (土壌混和)

dinoseb + diphenamid (1.5 + 2) (作物出芽期)

dinoseb + naptalam (2 + 3) (")

5) トーモロコシ

薬 剤 名	薬 量 A.I. ポンド/エーカー	対 象 雑 草	処 理 時 期	摘 要
atrazine	2 ~ 4	一年生イネ科, 広葉他	秋期~播種前 (土壌混和)	混和深 5 ~ 10 cm, 後作物に影響 あり。
butylate	3 ~ 4	一年生, 多年生	播種前 (土壌混和)	混和深 7.6 cm, ジョンソングラス ハマスゲにも有効
dalapon	6 ~ 9	"	播種の 4 週間以上前	処理 3 日後耕起する。ジョンソ ングラスに有効
paraquat	0.25 ~ 1.0	"	播 種 前	
atrazine	1 ~ 4	一年生イネ科, 広葉	播種直後	後作物に影響あり
alachlor	2 ~ 3	"	"	
chloramben	2	"	"	砂質土壌をさける
CDA A	4 ~ 5	"	"	

薬 剤 名	薬 量 A.I. ポンド/エーカー	対 象 雑 草	処 理 時 期	摘 要
chlorbromuron	2 ~ 4	一年生イネ科, 広葉	播種直後	
cyanazine	1.5 ~ 4	"	"	残効がatrazineより短く, 輪作 によい。
dinoseb	7.5 ~ 9	"	"	
linuron	1 ~ 3	"	"	
propachlor	4 ~ 6	"	"	砂質土壌をさける。
simazine	1.5 ~ 4	"	"	
2,4-D	1 ~ 2	"	"	砂質土壌をさける。
atrazine	1 ~ 4	"	雑草発生後 2.5 cm まで	後作物に影響あり, トウモロコシ 5.1 ~ 7.6 cm の場合は局部散布
cyprazine	1	"	" 10.2 cm まで	
dinoseb	3 ~ 4.5	"	トウモロコシ 2 l まで	
2,4-D	0.25 ~ 0.5	一年生広葉, オナモミ ヒュ 他	雑草発生後	トウモロコシ 25.4 cm 以上の場合 は, 局部散布
ametryne linuron	0.5 ~ 2 0.5 ~ 2	一年生イネ科, 広葉 "	トウモロコシ 38 ~ 76 cm 雑草 15.2 cm 以下	局部散布
dicamba	0.12 ~ 0.25	広葉雑草のみ	雑草発生後	トウモロコシ 20 cm 以上は局部散 布。大豆に薬害あり。

注) 現実には, これらを混合散布するが多い。

例 atrazine + alachlor (1+2) (播種直後)
atrazine + propachlor (1+2.4) (")
atrazine + Crop oil (2+3.8 l) (")
atrazine + butylate (1+3) (")
alachlor + cyanazine (2+1) (")
atrazine + paraquat (2~3+0.25~0.5) (不耕起栽培)
N肥料と除草剤との混合散布

6) 馬 鈴 薯

薬 剤 名	薬 量 A.I. ポンド/エーカー	対 象 雑 草	処 理 時 期	摘 要
dalapon	6 ~ 11	一年生, 多年生イネ科	植 付 前	雑草体に散布する。

薬 剤 名	薬 量 A.I. ポンド/エーカー	対 象 雑 草	処 理 時 期	摘 要
EPTC	3 ~ 6	一年生イネ科・広葉	植付前（土壌混和）	ハマスゲにも有効
dinoseb	4.5 ~ 6	"	植付後～作物出芽前	
diuron	0.8	"	植付直後	
linuron	1 ~ 2	"	植付後～作物出芽前	処理後90日間収穫しないこと。
metobromuron	3	"	植付直後	"
paraquat	1	"	植付後～作物出芽前	発生した雑草体に散布する。
trifluralin	0.5 ~ 1.0	"	植付直後（土壌混和）	
chlorbromuron	2 ~ 4	"	植付後～作物出芽前	linuron に同じ。
diphenamid	4 ~ 6	"	植付直後、中耕後	中耕後は局部散布。収穫前50日は処理しないこと。
TCTP	1 0.5	"	" "	
ametryne	2	"	中 耕 後	
CDA	4	"	"	
EPTC	3 ~ 6	"	"（土壌混和）	局部散布
dalapon	3.7	一年生、多年生イネ科	作物出芽後	局部散布

注1) 混合散布の例

trifluralin + EPTC (0.5 + 1.5) (土壌混和)

dinoseb + dalapon (3 + 2.5) (植付後～作物出芽前)

2) この表のTCTPは、米国における一般名DCPAである。

以下の作物の場合も同様。

7) 甘 藷

薬 剤 名	薬 量 A.I. ポンド/エーカー	対 象 雑 草	処 理 時 期	摘 要
chloramben	3 ~ 4	一年生イネ科・広葉	移植前後	
EPTC	1.12 ~ 2.25	"	移植前（土壌混和）	混和深 2.6 cm
vernolate	1.5 ~ 3	"	" (")	

薬 剤 名	薬 量 A.I. ポンド/エーカー	対 象 雑 草	処 理 時 期	摘 要
TCTP	8～10	一年生イネ科・広葉	移植直後	
diphenamid	4～6	"	"	
EPTC	0.75～1.88	"	"	

8) テンサイ

薬 剤 名	薬 量 A.I. ポンド/エーカー	対 象 雑 草	処 理 時 期	摘 要
EPTC	4～4.5	一年生イネ科・広葉	秋の後期（土壌混和）	ミネソタ，ノースダコタ州のみ。
"	2～3	"	播 種 前（ " ）	
cycloate	3～4	"	"（ " ）	作物の抵抗性は，EPTCより大。
pebulate	4～6	"	"（ " ）	
propham	3～5	一年生イネ科・野生オ ート麦	"（ " ）	作物生育期に局部散布してもよい。
diallate	1～2	野生オート麦	"（ " ）	
pyrazon	3.2～4	一年生広葉	"（ " ）	
endothall	4～6	一年生イネ科・広葉	播種直後	
TCA	5～8	一年生イネ科	"	ビートトップを窓密に与えぬこと。
pyrazon	3～4	一年生広葉	播種直後～雑草21まで	
phenmedipham	1～1.5	一年生イネ科・広葉	作物 2～41期	温度30℃以下で使用
EPTC	3	"	間引き後 （土壌混和・注入）	混和深 5.1～7.6cm
trifluralin	0.5～0.75	"	"（土壌混和）	" 2.5～5.1cm
dalapon	2～3	一年生イネ科	作物出芽～61期	61期以後は局部散布とする。
barban	0.4～1	野生オート麦	雑草21期	
endothall	0.75～1.5	タデ類，ソバカズラ他	作物4～61期	温度 16～27℃

注) 混合散布の例

pyrazon + dalapon (3.8+2.2) (作物21期)

9) サトウキビ

薬 剤 名	薬 量 A.I. ポンド/エーカー	対 象 雑 草	処 理 時 期	摘 要
atrazine	2~4	一年生イネ科・広葉	作物出芽前後	出芽後は局部散布。頭上散布も可能
simazine	2~4	"	"	" "
ametryne	2~4	"	"	"
C D A A	6~10	"	"	"
diuron	1~4	"	"	"
fenac	1~3.75	"	"	" ジョンソングラスにも有効
terbacil	1~2.5	"	"	" "
T C A	10~30	"	"	" "
trifluralin	1~4	"	作物出芽前後 (土壌混和)	
dalapon	3.6~7.2	一年生, 多年生イネ科	雑草生育期	局部散布する。
2,4-D	1~2	一年生, 多年生広葉	"	"
silvex	1~2	"	"	"

注) 混合散布の例

T C A + silvex (3.8~25.0+2.4~3.0) (雑草生育期, T C A高薬量は, 地下茎より出
 T C A + dalapon (16.0 + 3.6) } 芽したジョンソングラス防除用)
 ametryne + 2,4-D (0.8~3.2+0.5~2.0) (雑草生育期)
 atrazine + 2,4-D (0.8~3.2+0.5~2.0) (")
 diuron + 2,4-D (0.8~3.2+0.5~2.0) (")
 fenac + 2,4-D (1.5~2.0+1.5~2.0) (")
 fenac + silvex (2.7~3.75+2.4) (")

10) ワ タ

薬 剤 名	薬 量 A.I. ポンド/エーカー	対 象 雑 草	処 理 時 期	摘 要
dalapon	3.7~5.5	ジョンソングラス	播 種 前	処理後3日間は耕起せずに放置する。

薬 剤 名	薬 量 A.I. ポンド/エーカー	対 象 雑 草	処 理 時 期	摘 要
MSMA	2	主として、一年生イネ科・広葉	播 種 前	
paraquat	0.5	"	"	
nitralin	0.5～1.25	一年生イネ科・広葉	播種前（土壌混和）	混和深 2.5～5.1 cm
trifluralin	0.5～1.25	"	"（"）	"
TCTP	6～9	"	播種直後～作物出芽前	
diuron	0.4～1.6	"	播種直後～雑草生育期	雑草生育期は局部散布か lay-by 処理
fluometuron	0.75～2	"	"	"
monuron	1～1.6	"	"	"（重粘土壌に使用）
norea	0.75～2.7	"	"	"
prometryne	1～2.4	"	"	"
emulsified oil	1.87～3.74 (1/a)	ハマスゲ、ジョンソン グラス、一年生 他	雑草生育期	局部散布
naphtha	1.87 (1/a)	"	"	"
DSMA	2～3	"	"	" 高温乾燥期に効果高い。
MSMA	1～2	"	"	" "
EPTC	1～2	"	"	土壌注入処理
linuron	0.5～1.5	一年生イネ科、広葉	"	lay-by 処理
trifluralin	0.5～0.75	"	"	" 中耕後使用
dalapon	—	ジョンソングラス	"	スポット処理
TCA	—	"	"	"

注) 混合散布の例

diuron + DSMA (0.25～0.4+2.5～3.0) (雑草生育期)
 diuron + MSMA (0.25～0.4+1.5～2.0) (")
 fluometuron + MSMA (0.8～1.5+1.5～2.0) (")
 prometryne + MSMA (0.5 + 2.0) (")

11) タバコ

薬 剤 名	薬 量 A.I. ポント/エーカー	対 象 雑 草	処 理 時 期	摘 要
peblalate	3~4	一年生イネ科, 広葉, ハマスゲ	移植直前(土壌混和)	混和深 5~10cm
isopropalin	1.5	一年生イネ科, 広葉	" (")	"
benefin	1.12~1.5	"	" (")	"
diphenamid	4~6	"	移植直後(頭上散布)	"

12) ソルゴー

薬 剤 名	薬 量 A.I. ポント/エーカー	対 象 雑 草	処 理 時 期	摘 要
dalapon	3.7~6	ジョンソングラス	播 種 前	処理3~5日後耕耘する。2 1/2週 以降播種。
paraquat	0.5~1.0	一年生・多年生	播種前後	不耕起栽培等で使用
norea	1.0~2.4	一年生イネ科, 広葉	"	広葉にやや劣る。
propachlor	4~6	"	"	"
propazine	1.5~3	"	"	"
atrazine	1~3	"	播種前後, 作物出芽後	処理後21日間, 家畜に与えぬこと。
dicamba	0.25	一年生広葉	雑草発生後	
2,4-D	0.25~0.5	"	"	"

注) 混合散布の例

norea + atrazine (0.8~2.4+0.8~2.0) (播種前後)

norea + propazine (0.8~2.4+0.8~2.0) (")

propachlor + atrazine (1.2~3.5+0.8~3.9) (")

13) イネ科牧草類

薬 剤 名	薬 量 A.I. ポント/エーカー	対 象 雑 草	処 理 時 期	摘 要
2,4-D	0.5~2	一年生, 多年生広葉	雑草生育期	処理後7日間, 家畜に与えぬこと。

薬 劑 名	薬 量 A.I. ポンド/エーカー	対 象 雑 草	処 理 時 期	摘 要
2,4,5-T	1 ~ 2	一年生, 多年生広葉	雑草生育期	処理後6週間, 家畜に与えぬこと。
MCPA	0.25 ~ 2	"	"	
dicamba	0.25 ~ 1	"	"	処理後37日間, "
silvex	1 ~ 2	"	"	処理後6週間
diuron	0.8 ~ 2.5	一年生イネ科, 広葉	雑草発生前	生育一年以上の圃場のみ, 処理後70日間, 家畜に与えぬこと。
simazine	1 ~ 3	"	"	生育一年以上の圃場のみ, 処理後30日間, 家畜に与えぬこと。

注) 混合散布の例

2,4-D + dicamba (1 + 0.5) (雑草生育期)

14) マメ科牧草類

薬 劑 名	薬 量 A.I. ポンド/エーカー	対 象 雑 草	処 理 時 期	摘 要
benefin	1.1 ~ 1.5	一年生イネ科, 広葉	播種前(土壌混和)	
EPTC	2 ~ 4	"	" (")	
2,4-DB	0.5 ~ 2	一年生広葉	雑草生育初期	処理後30日間, 家畜に与えぬこと。
MCPA	0.13 ~ 0.25	"	"	
dinoseb	0.75 ~ 1.9	"	"	処理後60日間, 家畜に与えぬこと。
dalapon	2 ~ 2.2	一年生, 多年生イネ科	"	
chlorpropham	5 ~ 6	マメダオン	春先, 作物に寄生する前	湿った土壌面に粒剤を散布する。
dichlobenil	2	マメダオン, 他	"	
diuron	1.5 ~ 3.2	一年生イネ科, 広葉	春, 秋(作物休眠中)	生育一年以上の圃場のみ。
simazine	0.8 ~ 1.6	"	"	" 処理後30日間, 家畜に与えぬこと。

15) そ 菜

作 物	播 種 前 (主として, 土壌混和)	播 種 (植 付) 直 後	生育期, 中耕後 他 (主として, 局部散布)
アスパラガス		chloramben, diuron monuron, simazine	2,4-D, dalapon
インゲンマメ	EPTC, dalapon nitratin, trifluralin	chloramben, dinoseb	
ブロッコリー	bensulide, nitratin trifluralin	nitrofen, CDEC TCTP	
キャベツ	nitratin, trifluralin	CDAA, CDEC nitrofen, TCTP	
ニンジン	trifluralin	chloroxuron, chlorpropham nitrofen	linuron petroleum oil
カリフラワー	trifluralin	CDEC, nitrofen TCTP	
セロリー		CDAA, CDEC nitrofen	prometryne petroleum oil
キュウリ	bensulide	CDEC, chloramben dinoseb, naptalam nitratin	TCTP
ナス		TCTP	
ニンニク		chlorpropham, TCTP	
レタス	benefin, bensulide paraquat, propham	CDEC, chlorpropham	TCTP
ハッカ	trifluralin	dinoseb, terbacil	
オクラ	trifluralin	CDEC, diphenamid	
タマネギ		CDAA, chlorpropham TCTP	chloroxuron, nitrofen
バセリ		nitrofen	
エンドウ	trifluralin	CDAA, dinoseb propachlor	
ピーマン	nitratin, trifluralin paraquat	diphenamid chloramben	TCTP

作物	播種前 (主として、土壌混和)	播種(植付け)直後	生育期、中耕後 他 (主として、局部散布)
カボチャ		chloramben, dinoseb	
ホウレンソウ	cycloate, propham	CDEC, chlorpropham monuron, norea	
西洋カボチャ	bensulide	chloramben, dinoseb CDEC	TCTP
イチゴ		TCTP	chloroxuron, 2,4-D diphenamid, dinoseb
トマト	CDEC, pebulate nitralin, diphenamid bensulide methyl bromide	CDAA, CDEC chloramben, diphenamid	TCTP, oil
スイカ・メロン	bensulide, paraquat	CDEC, naptalam nitralin	TCTP

注) 対象雑草は、主として一年生イネ科、広葉

16) 果 樹

作物	対象雑草	薬 剤 名
リンゴ	多年生広葉、低木 全イネ科 一年生イネ科、広葉	AMS, 2,4-D dalapon dichlobenil, dinoseb, diuron, paraquat simazine, terbacil, oil
モモ	全イネ科 一年生イネ科、広葉	dalapon dichlobenil, dinoseb, diphenamid, paraquat simazine, terbacil, trifluralin, oil
クルミ	一年生イネ科、広葉	dichlobenil, dinoseb, diuron, EPTC paraquat, simazine, trifluralin, oil
ブドウ	全イネ科 全広葉 一年生イネ科、広葉	dalapon 2,4-D (飛散しないこと) dichlobenil, dinoseb, diuron, paraquat simazine, oil, trifluralin (移植前土壌混和)
カンキツ類	全イネ科 一年生イネ科、広葉	dalapon oil, bromacil, dichlobenil, diuron paraquat, simazine, terbacil trifluralin, monuron (グレープフルーツは除く) EPTC (主として苗床)

作物	対象雑草	薬 剤 名
ナ シ	全イネ科 一年生イネ科, 広葉	dalapon oil, diuron, dichlobenil, paraquat simazine, terbacil, 2,4-D

17) 灌排水路, 貯水池 等

生活形	対象雑草	薬 剤 名
浮水雑草	ウキクサ, ホテイアオイ, ツルノゲイトウ, ミズワラビ, オオバモ 等	2,4-D, diquat, silvex
抽水, 浮葉 および 水辺雑草	広 葉: タデ類, ツルノゲイトウ, クワイ類 ヒツジグサ, ジュンサイ 等	2,4-D, amitrole dichlobenil, silvex
	イネ科: ジョンソングラス, キシュウスズメ ノヒエ, アシカキ類, ヨシ, ガマ等	dalapon
沈水雑草	藻 類	硫酸銅, dichlobenil dichlone, endothall
	他植物: オオフサモ, キンギョモ, マツモ, カナダモ, イバラモ, タヌキモ 等	2,4-D, dichlobenil, diquat, endothall, fenac, silvex, acrolein } 使用法に, とくに注意する。 xylene

18) 非農耕地

対象雑草	薬 剤 名
広 葉	一年生, 浅根性 2,4-D, 2,4,5-T, dicamba, silvex
	多年生, 深根性 2,4-D, 2,4,5-T, 2,3,6-TBA, dicamba, picloram, picloram + 2,4-D
イネ科・カヤツリグサ科	一年生 等 dalapon, dinoseb, oil
	多 年 生 amitrole, amitrole-T, dalapon, dinoseb, DSMA, MSMA, oil, TCA
広葉・イネ科 等 混合	amitrole-T, AMS, atrazine, borate, bromacil, chlorate, dalapon, 2,4-D, dinoseb, diuron, erbon, monulon, oil, paraquat, prometone, silvex, simazine, TCA, および, これらの混合処理
雑木類	AMS, 2,4-D, 2,4,5-T, 2,3,6-TBA, fenuron, picloram, silvex, TCA, および, これらの混合処理

3. おわりに

1973年度における奨励除草剤の主なものは、以上のごとくであるが、最後に、同年、筆者が見学を訪ずれた各地の試験場で行なわれていた雑草防除試験の中で、とくに筆者が興味をひかれた点をのべて、今後の動向をみるうえの一助としたい。

まず、水稻の場合であるが、筆者が訪問したいずれの州においても、極めて有望な除草法として、benthiocarb + propanil (3+3 ポンド/エーカー) の混合散布 (直播水稻生育期処理) があげられていた。また、butachlor や benthiocarb 単剤の処理はやや効果不足、oxadiazon は薬害大で問題とされていた。oxadiazon については、筆者が、日本において、土壌混和処理を中心に、実用的に、広く普及していることを紹介したところ、多くの研究者が、大変、興味を示した。いずれにしても、水稻に対する除草剤利用の実用場面では、日本のほうが、米国より一歩先んじているという印象を持った。しかし、一方、アーカンソー州 stuttgart の稲作試験場では、Dr. Smith が、多忙の中で、水田雑草 Northern Joint-tvetch のバクテリアによる生物防除に圃場試験レベルで成功しているなど、将来を見越した、ゆつたりとした研究ぶりには、学ぶべきものを感じた。

その他の作物で、昨年、話題となっていた除草剤は、bentazon、および、metribuzin (Bay 94337) であった。とくに後者は、単独あるいは既存の他薬剤との組み合わせで、トウモロコシ、大豆等数多くの畑作物において極めて有望な結果を示していた。また、独創的な処理法として筆者が興味を持ったものの1つは、ミシシッピ州 stoneville、デルタ試

験場の Dr. Mewhorter 考案による大豆生育期 (草丈約1m) の glyphosate によるジョンソングラス防除法である。この場合、氏は、大豆の頭上に伸長したジョンソングラスの葉に対して横方向から薬剤を噴霧し回収する装置を作成し、それをトラクターにのせて処理を行ない、作物に薬害を生ずることなく雑草を枯死させることに成功していた。

ノースカロライナ州立大学の Worsham 教授らが熱心に推進している作物の不耕起栽培法は、現在、不耕起栽培農家の会を結成するまでに発展しているが、同教授による試験の結果では、効果と薬害の面から、paraquat 等に代わって、glyphosate と他薬剤の組み合わせが、最も有望視されていた。その他、glyphosate は、非農耕地をも含めて広範囲にわたって供試されており、著しく注目されている薬剤である。

米国の雑草防除に対する力の入れかたを身をもって認識するために、ノースカロライナとサウスカロライナ両州の境界付近に存在する witchweed 試験場を見学することは価値がある。Witchweed (*Striga asiatica* (L.) Kuntze) は、アフリカから米国に持ち込まれたものであり、トウモロコシ、ソルゴー、イネあるいは麦類等、多くのイネ科作物の根に寄生して、作物の生育を、著しく、不良にするために、極めて恐れられている雑草である。その広大な試験場内では、種々な witchweed 防除試験が行なわれているが、なかでも、筆者が最も印象づけられたものは、トラクターに装填したボンベから土壌中にエチレングスを吹き込んでゆき、witchweed 種子を、一斉に、休眠覚醒させ、発芽してきた幼植物に対して除草剤を処理することによって、一網打尽に、雑草を枯

死させるという方法である。この防除法は、昨 ことであった。
年、すでに、実用化試験に成功しているという

昭和48年度茶園関係除草剤・ 生育調節剤試験成績概要

農林省茶業試験場 青 野 英 也

昭和48年度における茶園関係の除草剤・生育調節剤関係の試験件数は、除草剤3件、生育調節剤4件の計8件で、除草剤については茶業試験場、同枕崎支場、京都府立茶業研究所、福岡県農試茶業指導所、大分県農業技術センター、三重県茶業センター、静岡県茶業試験場において試験が行なわれ、生育調節剤については農業

技術研究所、茶業試験場、福岡県農試茶業指導所、滋賀県茶業指導所、埼玉県茶業試験場、三重県茶業センター、奈良県農試茶業分場で検討が行なわれた。この試験成績検討会が、昭和49年2月23日茶業試験場で行なわれたので、その概要を報告する。

昭和48年度茶園関係除草剤・生育調節剤試験成績審査判定表

1 除 草 剤

薬 剤 名	有効成分及び含有率	判 定	内 容	委 託 者 名
HW-213 水和剤	N-[1-o-r-2(3a,4,5,6,7,7a-haxahydro)-4.7 methanoindanyl]-n-dimethyl-urea 50%水和剤	○ 土壌処理 実用化・継続	20~25g/aの施用で有効であるが、国立場所だけの成績であるので、49年度は2~3の公立場所で継続検討する。	保土ガ谷化学工業
		○ 発芽初期処理 継 続	メヒシバ発芽初期(2葉開葉時)に薬量をもう少し多くして処理する。	
MCC(粒状スエップ)	メチル-N-(3,4-ジクロロフェニル)カーバメイト粒剤15%	実用化・継続	春処理については茶試、三重県茶業センターで薬臭の有無を中心に検討し、夏処理については、さらに薬量、薬臭を中心に継続検討する。	スエップ普及会

薬 剤 名	有効成分及び含有率	判 定	内 容	委 託 者 名
MK-616	N-P-chlorophenyl Δ-tetrahydrophtalim- -imide 粒剤 5%	○雑草発生前処理 ○雑草発生前処理 ともに継続	試験場所数を増やし、施用量を、 15～30g/aに中心をおいて 継続検討する。	三菱化成工業

2 生育調節剤

薬 剤 名	有効成分及び含有率	判 定	内 容	委 託 者 名
ルチエース	5-クロロインダゾール酢 酸(Na塩)0.05%および、 0.1%含有する粉剤	継 続 ?	対照薬剤ルートンと比較して効果 はやや劣り気味で、粉剤という点 も実用上やや問題。	日 産 化 学
ミクロンC	パラフィンワックス及びカル ナウバワックスの相融ワッ クス乳分化散液(固型分) 40%前後	継 続	チャのさし木への応用を目的に検 討したが、他の目的、例えば気象 災害、寒干害防止等への利用を考 える。	日、本 技 研
G-PAA	天然有機高分子化合物2%水 溶液	継 続	現在実験進行中	エ ー ザ イ
ネマモール粒剤 30	DCIP, 22, ジクロルジ イソプロピルエーテル	継 続	施用量を5, 8, 10kg/10a とし、もう少し場所数を増加する	昭 和 電 工

I 除 草 剤

1. HW-213 一土壌処理一

担当場所 茶業試験場、同枕崎支場

2場所での試験結果から、HW-213土壌
処理の抑草効果は、春夏の試験を通じて50日
～70日程度認められ、対照薬剤CATとの比
較でも、30日後まではHW-213のほうが、
抑草効果はまさっている。また前年度より施
用量を5g増して25g/a区を設けているが、
20g/a施用区との差ははっきりしなかった。
なお、1年生広葉雑草イヌタデ(枕崎支場)、
およびカヤツリグサ(本場)の抑草効果は判然
としなかった。

以上の結果から、HW-213の土壌処理は
メヒシバ等の抑草に有効と思われるが、試験場

所数が少ないので、2～3の公立場所において、
継続検討することとした。

2. HW-213 一発芽初期処理一

担当場所 茶業試験場、同枕崎支場

茶試本支場の成績ともにHW-213の殺草
抑草効果は認められているが、対照薬剤リニ
ロンと比較すると、その効果は必ずしもまさ
るとはいえない。またメヒシバだけに限れば
かなり効果がみられるが、カヤツリグサなど
非イネ科雑草に対する効果は劣るようである。

全般に雑草が生長するにしたがつて効果は劣
る傾向があるので、処理期をメヒシバの発芽
初期(2葉開葉期)と規定し、薬量をやや増加
して、継続検討することとした。

3. MCC(粒状スエップ)

担当場所 茶試枕崎支場、京都府立茶業研
究所、福岡県農試茶業指導所、大分県農業技術セ

ンター、三重県茶業センター

受託5場所のうち福岡県農試の春季試験で、効果が認められなかったほかは、春、夏季の試験ともに効果があり、対照薬剤CATと比較して同等か、まさる場合が多かった。さらに施用量については、前年度春処理の場合70～90g/aで実用化されているが、本年春、夏季の試験を通じて、春処理の場合60～75g/a程度で抑草効果は高く、夏季処理でも120g/aで十分有効であることを認めている場所が多い。またチャに対する薬害、および製品についての異臭の有無などについて検討したが、多くの場所で異常が認められなかったが、三重県茶業センターではやや異臭を認め、香気が劣ることを報告している。

以上から粒状スエップについては、抑草効果については十分認められるが、製品への影響に若干疑問が残るため、この点を中心に継続検討することとし、夏季処理についてはさらに施用量について検討することとした。

4. MK-616 ー雑草発生前処理ー

担当場所 茶業試験場、静岡県茶業試験場

2場所での試験結果は、ともに長期（春処理で50～70日、夏処理で30～50日）にわたって抑草効果がみられ、CATより効果はまさり、また水和剤より粒剤のほうがまさった。さらにその効果は処理前後に適度の降雨のある場合より大きかった。

以上のように抑草効果は十分認められるので、さらに薬量を15～30g/a程度に減少し、試験場所数も増加して継続検討することとした。

5. MK-616 ー雑草発生初期処理ー

担当場所 茶業試験場、静岡県茶業試験場

静岡県茶試の成績によると、MK-616粒剤区は効果の発現が早く、5～7日後にメヒン

バの幼葉は褪色し、萎凋し始め、30日後に再生したものは少なく、茶試でも70日後まで殺草効果は大きかった。

このようにMK-616の雑草発生初期処理は、発生前処理と全く同様の抑草効果を示したので、この場合も薬量等を中心に、場所数を増やして継続検討することとした。

Ⅱ 生育調節剤

1. ルチエース

担当場所 福岡県農試茶業指導所、滋賀県茶業指導所

チャのさし木発根に及ぼすルチエースの効果について、福岡県農試の場合、根重ではやぶきた、やまなみともに、ルートン>ルチエース>無処理の順となり、地上部の生育では40日後の調査の場合、やぶきた、やまなみの新梢長でルチエースがまさったが、総じて両品種ともにルチエースは、ルートンより劣っている。また滋賀県茶指の結果をみても、根重については各品種とも、無処理区と比較してまさる場合が多いが、有意差は認められず、むしろルートンのほうがよりすぐれている場合が多かった。

以上からルチエースについては、対照薬剤ルートン以上の効果があまりみられないこと、さらに粉剤であることが実用上不利であることも加味して、継続?とした。

2. ミクロンC ーさし木の活着促進とかん水の節減効果ー

担当場所 茶業試験場、埼玉県茶業試験場、福岡県農試茶業指導所

茶試の成績では、ミクロンC10倍区の消費量が最も少なく、20倍区も5%程度の水量節減がみられ、蒸散抑制効果がみられたが、新芽

新根の発育に対しては抑制的に働いているため、実用上の評価は速断できないとしている。また埼玉茶試ではポット当たり用水量をみると、ミクロンC 10倍区が少なく、他の処理区もやや少ないようである。またさし木後の生育状態についても、ミクロンC 20～40倍区は新芽、新根の生長ともにまさる場合が多かった。しかしこれらは室内実験で自然降雨がないので、露地でも試験してみる必要があるとしている。

3. ミクロンC —さし穂の貯蔵に関する効果—

担当場所 茶業試験場、埼玉県茶業試験場、福岡県農試茶業指導所

茶試の成績では、ミクロンCを処理後10時間以上放置した場合、その濃度が高いほど水分の減少を抑制し、20時間以上放置した場合でも、ミクロンCの10倍区は無処理区の約60%に止まっている。しかしさし木後の新芽の生長、根の生長に対しては抑制的に働く傾向が認められ、応用的な評価はむづかしいとしている。

また埼玉県茶試の成績でも、採穂園での蒸散抑制効果はきわめてわずかで、さし木後の生育も、散布処理の効果はほとんど認められなかった。そうしたことから採穂園での散布より、さし穂を調整後に浸漬処理するほうが均一な処理ができ、効果が增大するのではないかと推論している。

さらに福岡県茶指の場合、散布10、20時間後では無処理区の減水量が、処理区よりやや多くなったが、各処理区間ではほとんど差がみられず、さし木40日目、90日目の調査結果でも、発根状態、地上部の生育状態ともに判然としなかった。

以上のように各場所とも、ミクロンCの散布により、蒸散抑制効果が認められ、水分消費を

抑制したが、さし木苗の発根、生長に対しては、むしろ抑制的に働く場合が多く、むしろ、他の目的例えばこの蒸散抑制効果を利用して、寒干害防止効果を狙うなど、他の目的に応用するため、継続検討することとなった。

4. G-PAA

担当場所 農業技術研究所

農技研では高分子被膜剤としてG-PAAの開発を行ない、diffusion porometerによる被覆の蒸散抑制率の測定と、吸水測定装置を使つての、チャの人工気象室内での風速変化に対する吸水変化と、蒸散抑制による吸水変化を測定中である。この場合人工気象室内の環境条件では、風速の増加により吸水量は減少し、G-PAAで被膜した場合、風速が増大するにつれて、吸水には抑制効果の生じる傾向が認められている。今後チャを用いて、diffusion porometerによる蒸散抑制と、吸水測定装置による吸水抑制とを、種々の気象条件下で究明し、関係づけていく予定であるとしている。

5. ネマモール粒剤30 —さし木の発根、生育促進—

担当場所 三重県茶業センター、奈良県農試茶業分場

さし木床におけるネマモールの処理が、さし木の発根、その後の生育に及ぼす影響については、三重県茶業センターの場合、さし木60日、90日後の調査では、処理効果は明確でなかったが、90日後の場合根長がややすぐれている。しかし全般的に施用量をもう少し増やして検討する必要があるとしている。一方奈良県農試では、ネマモールの処理効果は90日後にみられ、根重、根数での効果が大きく、したがって新梢長もまさっている。また処理量としては、5kg/aが適当であるとしている。

以上のように受託2場所によって、その効果は相反した結果が得られているので、施用量を5～10kg/aと幅広くとり、試験場所も増やして継続検討することとした。

〔付記〕 以上のほか、本検討会議では昭和47年度冬季に行なったアビオンーE200、OEDグリーンのチャの寒干害防止効果に関する試験結果も検討された。この成績ではアビオ

ン、OEDともに寒干害防止効果はある程度認められたが、47年度の冬は比較的暖冬のことであって、それほど明確ではなかった。

アビオンについては引き続き昭和48年度も継続検討中であり、特にこの冬は乾燥ときびしい低温に見舞われているため、この年の検討をまっけて結論づけることが約束された。

昭和48年度落葉果樹関係除草剤・ 生育調節剤試験成績概要

農林省果樹試験場栽培部栽培第二研究室長 山崎利彦

昭和48年度における委託試験は除草剤4点（5件）、生育調節剤9点（19件）で、これら供試薬剤の試験成績検討と仮判定会議が49年1月31日（東京）に各場所の試験担当官の参集のもとに行なわれた。

結果の概略は次のとおりであった。

I 除草剤試験成績概要

昭和48年度 落葉果樹関係除草剤試験成績判定表

薬 剤 名	委 託 者	樹 種	品 種	判 定		使用法・検討事項
				前 回	今 回	
DPA・DCMU・MCP粒剤	石 原 産 業	ブドウ	デラウェア	継	継	若木に対する薬害除草剤としての使い方
MON — 39 乳剤	日本モンサント	ブドウ	デラウェア キャンベル アーリー他	継	実	: 500ml/50~100l
					継	: 薬害を検討
SL — 29 乳剤	石 原 産 業	ブドウ	デラウェア	新 規	継 ?	
SL — 54 乳剤	石 原 産 業	ブドウ	デラウェア	新 規	継 ?	
DPA・DCMU・MCP粒剤	石 原 産 業	ナ シ	長十郎	継	継	

1. DPA・DCMU・MCP粒剤

(ブドウ)

試験担当場所：山梨果試，香川農試府中

春処理で5 kg/10 aの低濃度でも70日以上の発芽抑制力を有し，効果の発現はグラモキソンより遅れたが抑草期間は長かった。したがって，抑草効果に主眼を置いて使った方がよいとしている（府中）。しかし1年生苗に薬害がみられたので試験は継続試験として，①若樹についての薬害を検討し，②抑草剤としての使用方をさらに検討する。

(ニホンナシ)

試験担当場所：茨城園試

一県において検討されただけであったが，8 kg/10 aでは抑草効果はよかったが5 kgではやや不足であった。試験は継続として，①さらに効果を確認することになった。

2. MON-39乳剤

(ブドウ)

試験担当場所：果試安芸津支場，山梨果試，石川砂丘地農試，愛媛果試

DPA・DCMU・MCPと同様に殺草効果

のあらわれ方はグラモキソンより遅かったが，500 ml/10 aの使用で草は完全に枯死し，45日以上効果が認められ，グラモキソンよりも持続効果が長かった。すべての草種によく効き，ブドウに対する悪影響は認められなかった。草は完全に枯死するので，草生栽培園では問題であろう。なお250 ml/10 aでは効果が劣るようであり，実用化濃度は500 mlの薬剤を50～100 lの水に溶解して用いる。継続試験事項としては，ブドウ樹に対する薬害をさらに検討することになった。

3. SL-29およびSL-54乳剤

(ブドウ)

試験担当場所：山梨果試

SL-29の効果はカーメックス-Dより劣り，ヒメジョンに対する効果は十分でなかった。SL-54も効果はカーメックスより僅かに劣ったが，高濃度ではヒメジョン以外の雑草に対して抑制力が大きであった。

Ⅱ 生育調節剤試験成績概要

昭和48年度 生育調節剤試験成績判定表

薬 剤 名	委 託 者	樹 種	品 種	試験目的	判 定		使用法および継続検討事項
					前 回	今 回	
ベンジルアミノプリン (BA)液剤 (ベンジルアデニン)	味の素 クミアイ化学工業	ブドウ	巨 峰	花振い防止	新 規 (デラ実)	継	効果の確認 使用時期と濃度
FC-907 液剤 (リラボン)	FC-907 研究会 藤沢薬品工業， 他	ブドウ	巨 峰	花振い防止	実 継	実	1.露地に限定する 2.処理時期は8～9枚展葉期 3.500～750 ppm 4.処理が早すぎないこと
ジベレリン(GA) 水溶液	協和醸酵工業	ブドウ	ヒロハン ブルグ	成熟促進	継	実 ・ 継	1.満開10～15日に50～ 100 ppm 2.濃度の決定 3.散布処理の可能性

薬 剤 名	委 託 者	樹 種	品 種	試験目的	判 定		使用法および継続検討事項
					前 回	今 回	
ジベレリン+ アトロックス-B I	日本ジベレリン 研究会 協和醸酵工業, 他	ブドウ	デラウェア	GAの 吸収促進 散布の実用 化	継	実 ・ 継	1. 満開約10日後 2. 75~100ppm [水量 80~100l/10a] 1. B Iを加える条件 2. サビと気象の関連 3. 散布器具との関係
同 上	同 上	同 上	同 上	耐雨と展着 効果	新	実	1. B I濃度は0.3~0.5% 2. サビ発生ひどい条件下では 濃度を低くする 3. 前処理にのみ応用する 4. 4~5時間後に降雨の場合 はGA単独処理 5. 果房の伸長がやや抑制され ることあり
パラフィン (キクノール)乳剤	三 和 産 業	同 上	同 上	展着効果	新	継 ?	効果劣る
PPK-30水溶剤	エ ー ザ イ	同 上	同 上	成熟促進 糖度上昇	新	中 止	
ACP-68-250 液 剤 (エスレル)	2.4-D協議会	ナ シ	各 品 種	成熟促進	新	実 ・ 継	廿世紀に準ずる 品種別の使用法検討
"	"	カ キ	富 有	"	実 継	実 ・ 継	1. 20~30ppm 2. 着色はじめに散布 3. 成木200l, 幼木150 l/10a 1. 品質低下の防止 2. 濃度と散布量の規定
"	"	"	平 核 無	"	継	継	1. 散布液量の規定 2. 収穫時期の検討
"	"	モ モ	白 鳳	"	新	継	各品種で検討する
"	"	オウトウ	ナポレオン	"	新	継	1. 効果の確認 2. 実割れと収穫後の日持ち
"	"	ウ メ	白加賀, 他	"	新	中 止	
NB-18 (メチオニン)水溶剤	日 本 曹 達	ナ シ	廿 世 紀	成熟促進	継 ?	継 ?	効果不十分
"	"	カ キ	富 有	"	継	継 ?	"

薬 剤 名	委 託 者	樹 種	品 種	試験目的	判 定		使用法および継続検討事項
					前 回	今 回	
ACP-68-250 液 剤 (エスレル)	2,4-D協議会	カ キ	富 有	摘果(摘帯)		実・ 継	1. 50ppm 2. 満開後10日散布 1. 気象、樹勢などの条件と摘 果効果の関係 2. 散布は10日前後で検討
ジベレリン(GA) 水溶剤	協和醗酵工業	カ キ	富 有	落果防止	実 継	実	1. 満開10日後、200ppm 2. 火山灰土壌、草植園で効果 が期待できる
G・H・S 水溶剤 (ハイスィート)	日 本 技 研	モ モ	早生品種	糖度上昇	新	継 ?	効果不十分

1. ベンジルアミノプリン(BA)液剤による 花振り防止

ブドウ(巨峰)

試験担当場所：茨城園試、栃木農試、長野園試、長野農試桔梗ヶ原、山梨果試、福岡園試、(石川農試)

濃度は50～200ppmで検討され、山梨果試では有効果粒数の増加、果房重の増加が認められ、100ppmが安定した効果を示したとしている。他の地域では、果粒数の増加がみられた場合とそうでない場合(栃木)があり、効果が認められた場合でも、それは無核果の増加であり肥大が十分でなかった。継続と判定され、さらに効果を確認することになった。

2. FC-907液剤による花振り防止

ブドウ(巨峰)

試験担当場所：茨城園試、栃木農試、神奈川園試、長野農試桔梗ヶ原、山梨果試、鳥取果試(長野園試、石川農試、福井園芸センター)

効果が認められた場合と(栃木、福井、鳥取、長野)そうでない場合があった(山梨、神奈川)。効果が認められなかったのは、枝の伸長が少なく、樹勢が落着いていたためと(山梨)、生長抑制効果はB-9に匹敵したが無処理区の着粒

数も多かったので効果が認められなかったためと考えられる(神奈川)。

このようにFC-907はB-9より花振り防止効果はやゝ低かったが、大面積栽培では着粒過剰がかえって不利な場合もあるので、使い方によっては有利な場合もあるといわれる。

実用と判定され、実用化の方法は、①露地に限定する。②処理時期は8～9枚展葉時、③濃度は500～750ppm、④処理時期は早すぎないこと。

3. ジベレリン(GA)水溶剤による果粒肥大 ブドウ(ヒロハシナ)

試験担当場所：岡山農試

果粒重、果房重ともに増加したが熟期の促進効果は不明瞭、実継と判定され、実用化の方法として、①満開後10～15日浸漬、②濃度は50～100ppm。また継続検討事項は、①濃度の検討と、②散布処理の可能性を検討することになった。

4. GA+アトロックス-BIの散布処理試験 ブドウ(デラウェア)

試験担当場所：山形園試、同砂丘分場、長野農試桔梗ヶ原、山梨果試、石川砂丘地農試、大阪農技センター

アトロックスーB I の効果……山梨果試ではこれを添加することによって果粒の肥大が促進されたが、その他の場所ではアトロックスーB I の良い効果は認められず、粒重の減少とサビの増加が認められた果が多かった。

G A の濃度……5 0 p p m でも散布効果は認められたが安全性を考慮して7 5 p p m の方がよいとする果が多かった。

以上の結果と今までの成績を総合的に判断して実証と判定され、実用化の方法としては、①満開約1 0 日後散布。②濃度は7 5 ~ 1 0 0 p p m , ③水量1 0 アール当り8 0 ~ 1 0 0 l , 但、開花前処理は従来通り。また、継続検討事項は、①アトロックスーB I を加へるべき条件。②サビの発生と気象条件の関連。③散布器具のえらび方などであった。

5. ジベレリン+アトロックスーB I による

耐雨および展着効果の体系化試験

ブドウ(デラウェア)

試験担当場所：山形園試、長野農試桔梗ヶ原
山梨果試

アトロックスーB I の添加効果とG A 濃度の影響を個々に解析することは困難であったが、悪天候の条件を考慮にいて、B I を添加すればG A は7 5 p p m にできるとしている報告例が多い。実用と判定され、方法は次の通りである。①アトロックスーB I 濃度は0.3 ~ 0.5 %。②サビが発生しやすい条件下では濃度を低くする。③前処理のみ。④4 ~ 5 時間後に降雨があった時はG A 単独処理を行なう。⑤果房の伸長はやや抑制される傾向がある。

6. パラフィン(キクノール)乳剤によるG A

の耐雨性増加

ブドウ(デラウェア)

試験担当場所：山形園試、山梨果試

アトロックスーB I に比較して効果が劣った。

判定は継いで中止の方向とされた。

7. P P K - 3 0 水溶剤による糖度上昇

ブドウ(デラウェア、他)、ニホンナシ(廿世紀)、カキ(平無核)、その他

試験担当場所：栃木農試、山梨果試、島根農試浜田、(果試安芸津、青森畑園試、山形園試、福島園試、長野園試、長野農試桔梗ヶ原、石川砂丘地農試、鳥取果試、岡山農試、香川農試府中、福岡園試、新潟農試佐渡)

ブドウでは主としてデラウェアが供試されたが糖度の上昇はほとんど認められなかった。また他の数品種についても結果は同様であった。ナシでは廿世紀の着色はよくなり、果面の仕上がりが美麗であったと報告されたが(鳥取)、他の果樹ではブドウと同じく効果が認められず、中止と判定された。

8. A C P - 6 8 - 2 5 0 エスレル液剤による熟期促進

ナシ(青ナシ、赤ナシ)

試験担当場所：神奈川園試、福井園芸センター、鳥取果試、福岡園試、茨城園試、栃木農試千葉農試、愛知農総試園研、(富山農試魚津)

エスレル散布によって長十郎は3 ~ 7 日早まり、例外として栃木において効果がみられない場合もあったが、これは乾ばつによるものと考えられた。果実の肥大は変化が認められないが、いくらか小果になることもあり、一部に裂果がみられた。果実の肥大抑制は熟期が早まった分の期間の肥大に見合う分に相当した。濃度は、5 0 と1 0 0 p p m の間で差がみられ、1 0 0 と2 0 0 p p m 間ではほとんど差が認められなかった。散布時期は、満開後1 1 0 日前後がよく、1 2 0 日では効果が少なかった。

早生廿世紀の熟期は5 ~ 1 0 日早まった。果

実の肥大はよかった(福井)。濃度は、50～100ppmが適当と考えられ、散布時期は早いほど落果が多かった。散布時期は県によって多少異なったが、満開後90～105日の範囲内と考えられた。

その他の品種は八雲、新世紀、新水、幸水、豊水、旭で試験が行なわれ、豊水は約2週間、幸水で1週間、新水では7～13日熟期が早まり、果実の肥大は変化がないが、やゝ促進された。散布濃度は50～100ppmで散布時期は品種の熟期によって異なるが、八雲で満開後95日、新世紀で100日ごろであった。

実継と判定され、使用法は廿世紀に準ずるものとし、品種別の使用法については引き続き検討することになった。

カキ(富有)

試験担当場所：岐阜農試、和歌山果試紀北、福岡園試(茨城園試、神奈川園試、香川農試府中、徳島果試上坂)

どの県でも効果が顕著で、着色ははじめ期に、30～50ppmを散布することによって、最低で1週間、最高で約3週間熟期が促進された。果実の肥大は変化がないが、やゝ促進される傾向があり、問題点は軟熟果の出現と、時によりヘタスキが増加することであった。またスプリンクラー散布の場合は25ppmの濃度がよかった。

実継と判定され、使用法は、①濃度は20～30ppm。②着色ははじめ期散布。③散布量は成木で200l、幼木で150l程度とする。これはしたたり落ちない程度である。

継続検討事項として、①品質の低下を防ぐ。②濃度と散布量をより詳しく規定することがあげられた。

カキ(平核無)

試験担当場所：山形園試砂丘、新潟農試佐渡和歌山果試紀北、(果試安芸津)

10～20ppmを散布することによって約1週間程度熟期が早まり、果実は大きくなった。しかしエスレル散布区の果実はアルコール脱渋に不向きであり、炭酸ガス脱渋でも脱渋後に軟化が早い傾向にあった。継続と判定され、①散布液量。②収穫時期の検討が必要と認められた。

モモ(白鳳、大久保)

試験担当場所：福島園試、神奈川園試、山梨果試。(岡山農試)

25～50ppmの散布によって2～5日熟期が早まった。適正濃度は25ppm前後と考えられ、満開後70～75日に散布があるようである。山梨果試では、松森早生を供試したが顕著な効果は認められなかった。

ウメ(白加賀、他)

試験担当場所：群馬園試、福井園芸センター(徳島果試上坂)

白加賀、鶯宿、紅サシなどの品種が供試されたが、どの品種も落果がはげしく、果実は肥大せず散布の意義はまったく認められなかった。ウメは本来成熟させて収穫するものではないうえに、この散布時期は生理的落果の時期に相当しており、エスレルはこの生理的落果を促進する方向に働いたものと考えられる。

オウトウ(ナボレオン)

試験担当場所：青森畑園試、山形園試、福島園試

熟期は3～7日早まった。50ppm前後が最適濃度であり、散布時期は各県一致して収穫3週間前が最適であった。オウトウの熟期は5日ぐらい促進できれば非常に有利であり、継続と判定され、実われと収穫後の日時が検討事項とされた。

9. NB-18 (メチオニン) 水溶剤による

熟期促進

ナシ (廿世紀)

試験担当場所：福島園試，鳥取果試，福岡園試

効果が認められた場合と (鳥取，福岡など)，認められない場合があった (福島など)。効果が認められた場合もエスレルより劣り，時により果実の肥大が抑制された。新世紀でも3～4日の熟期促進効果が認められたがユズ肌が発生した (福岡)。判定は継？で理由は効果が不十分なためであった。

カキ (富有)

試験担当場所：神奈川園試，富山農試魚津，和歌山果試紀北，(果試安芸津)

1000～2000ppmで2～7日の促進効果が認められたが，効果の変異が非常に大きくエスレルより効果が劣った。継？と判定され，理由は効果が不十分なためであった。

10. ACP-68-250 (エスレル) 液剤による摘果 (摘蕾)

カキ (富有)

試験担当場所：神奈川園試，岐阜農試，和歌山果試

満開前10～15日の散布で50～75ppmの濃度はよい摘果効果が認められたが，福岡だ

けは6～12日前の100ppmがよかった。

実用濃度は50ppm前後と考えられるが，気温や樹勢によって効果に変異がみられた。判定は実継で，使用法は，①濃度50ppm。②散布時期は満開後10日。継続検討事項は，①気象，樹勢などによる効果の変異の解析。②散布時期をさらに確めるなどであった。

11. ジベレリン (GA) 液剤による落果防止

カキ (富有)

試験担当場所：和歌山果試紀北，鳥取果試，福岡園試

どの場所でも効果が認められたが，果実はやや小さくなる傾向がみられた (鳥取，福岡)。これは実用上問題ではあるが，仕上げ摘果によって補えるとしている。実用と判定され，使用法は次のようにきめられた。①満開10日後の散布で，濃度は200ppm。②火山灰土壌や単植園で効果が期待できる。

12. G・H・S水溶剤による糖度の増加

モモ (早生品種)

試験担当場所：福島園試，富山農試魚津，愛知農総試園研，香川農試府中，愛媛果試，(山形園試砂丘)

いくらか効果があるとみられたのは愛媛の布目早生だけであった。継？と判定された。

昭和48年度カンキツ関係除草剤・ 生育調節剤試験成績概要

農林省果樹試験場興津支場栽培研究室長 広瀬和栄

昭和48年度カンキツ関係除草剤・生育調節剤試験成績の検討会を東京 (日本都市センター)

において開催した。

であつた。

検討した薬剤は除草剤15種、生育調節剤12 検討結果は第1表に示す。

種であり、検討に参加した試験場所は23場所

第1表 昭和48年度 カンキツ関係試験供試薬剤・試験場所および判定一覧表

A. 除 草 剤

番号	薬 剤 名 { 種 類 名 } { 商 品 名 }	剤型	有効成分および 含 有 率	委 託 者	試験担当場所	新・継 の 別 { 前 回 判定 }	今 回 判 定	判定理由および 内 容
1	DCPA DCPA { 改良DCPA }	乳	3,4-ジクロロプ ロピオンアニリ ド 20.0%	武田薬品工業	静岡柑試・伊豆、 和歌山果試、広島 果試、山口・大島 柑試、香川農試府 中、福岡園試、宮 崎総農試	継 続 [実・継]	実用化	[夏草対象] ・ 2~3 l / 10 a 散布 (水量, 200 l)
2	CB-712 { サイプロミット・ プロモキシニル }	乳	サイプロミット: 3/4'-ジクロル プロパンカルボ キシアニリド 20.0% プロモキシニル: 3,5-ジブロム -4-ヒドロキ シベンゾニトリ ル 15.0%	C B 研 究 会 { 石 原 産 業 東 陽 通 商 日産化学工業 日 本 曹 達 }	静岡柑試・伊豆、 和歌山果試、香川 農試府中、佐賀果 試	継 続 [継]	継 続	夏草に対する効 果に関して、草 種と濃度につい て再検討
3	DCMU・ プロマシル { DCMU・プロマシル デュボン クロノパー1 }	水和	DCMU: 3-(3, 4-ジクロルフ エニル)-1,1 -ジメチル尿素 40.0% プロマシル: 5- グロム-3-セ コンダリ-ブチ ル-6-メチル ウラシル 40.0%	デュボン・ ファーイースト (日本支社)	静岡柑橋試、高知 果試、福岡園試	継 続 [継]	継 続	効果劣る (継 ?)
4	EH-275 { DCMU・ターバシル デュボンゾーバー }	水和	DCMU: 3-(3, 4-ジクロルフ エニル)-1,1 -メチル尿素 30.0% ターバシル: 3- ターシャリ-ブチ ル-5-クロロ- 6-メチルウラシ ル 40.0%	デュボン・ ファーイースト (日本支社)	高知果試	継 続 [実]	実用化 ・ 継 続	[夏草対象] ・ 0.3~0.4 kg / 10 a 散布 ・ 草種、雑柑の 種類について 再検討

番号	薬 剤 名 { 種 類 名 } { 商 品 名 }	剤型	有効成分および 含 有 率	委 託 者	試験担当場所	新・継 別 〔 前 回 判 定 〕	今 回 判 定	判定理由および 内 容
5	SSH-36 アシュラム・ 〔 アイオキシニル アシュメックス 〕	水溶 (液)	アシュラム(Na): N'-メトキシカル ボニルスル フェニルアミド (Na) 23.0% アイオキシニル(Na) 3,5-ジ- 4-ヒドロキシ ベンゾニトリル 23.0%	塩 野 義 製 薬	果試・口之津, 徳 島果試, 愛媛果試, 佐賀果試, 熊本果 試	継 続 〔 継 ? 〕	継 ?	効果不足
6	A-3589 〔 (アメトリン・ GS-14254) 〕	水和	アメトリン: 2- メチルチオ-4- -エチルアミノ -6-イソプロ ピルアミノ-S -トリアジン 25.0% GS-14254: 2- -メトキシ-4- -エチルアミノ -6-セコンタ リ-ブチルアミ ノ-S-トリア ジン 25.0%	日本チバガイギー	果試・興津, 静岡 柑橘試, 愛媛果試, 福岡園試	継 続 〔 継 〕	継 続	処理薬量(濃度) と草種について 再検討
7	MON-39 〔 グリフォセート ラウンドアップ 〕	乳	N-(ホスホノメ チル)グリシン ・イソプロピル アミン塩 41.5%	日本モンサント	果試・興津, 同・ 安芸津, 神奈川・ 根府川, 静岡柑橘 試, 三重・紀南か んきつセンター, 和歌山果試, 山口 ・大島柑試, 愛媛 果試, 高知果試, 佐賀果試, 熊本果 試, 宮崎総農試	継 続 〔 継 〕	実用化 継 続	〔春・夏草対象〕 ・雑草生育期 0.25~0.5 l/ 10a (水量 50~100 l) 散布。(ただ しミカンの茎 葉にかからぬ よう注意) ・実用試験(試 験区の規模の 拡大)につい て検討。 宿根草の草種 ・濃度につい て再検討
8	amefryne 〔 アメトリン ゲザパックス 〕	水和	2-メチルチオ- 4-エチルアミ ノ-6-イソプロ ピルアミノ-S -トリアジン 37.5%	日 本 化 薬 日本チバガイギー	果試・興津, 神奈 川・根府川, 静岡 柑橘試, 愛知・蒲 郡, 和歌山果試, 広島果試, 愛媛果 試, 福岡園試, 熊	継 続 〔 実 〕	実用化	〔春・夏草対象〕 雑草生育期 0.75~1.0 kg /10a 散布

番号	薬 剤 名 { 種 類 名 } { 商 品 名 }	剤型	有効成分および 含 有 率	委 託 者	試験担当場所	新・継続 の [前回 判定]	今 回 判 定	判定理由および 内 容
					本果試, 大分柑試 ・津久見			
9	M&B-9057 アシュラム アーザラン	液	N-メトキシカル ボニルスルファ ニルアミド 37.0%	塩 野 義 製 薬	①1年生・多年生 雑草対象 果試・安芸津, 徳島果試, 愛媛 果試 ②多年生イネ科雑 草対象 果試・口之津, 愛媛果試, 大分 柑試・国東	継 続 [実・継]	実用化 継 続	昨年通り(ヨモ ギ, ギンギン, ワラビ対象, 生 育初期2~3l/ 10a 散布) ヒルガオ, チガ ヤは薬量, 濃度 について再検討
10	chlorthiamid DCBN プレフィックス	粒	2,6-ジクロルチ オベンザミド 6.0%	プレフィックス 普及会 〔石原産業〕 シエル化学	静岡柑橘試, 福岡 園試	新 規	継 続	試験年次不足 草種と薬量につ いて検討
11	chlorate 塩素酸塩 クロレートソーダ	水溶	塩素酸ナトリウム 98.5%	昭 和 電 工	果試・興津, 同・ 口之津, 同・安芸 津	新 規	実用化	[春・夏草対象] 雑草生育期4.5~ 7kg/10a散布 (但し, ミカン 葉にかからぬよ う注意)
12	DCBN・MCP (DCBN・MCP)	粒	DCBN: 2,6- ジクロルチオベ ンザミド 4% MCP: 2-メチ ル-4-クロル フェノキシ酢酸 4%	プレフィックス 普及会 〔石原産業〕 シエル化学	果試・口之津, 和 歌山果試	新 規	継 続	試験年次不足
13	RE-75	水和	(未公開) 50.0%	ト ー メ ン	果試・興津	新 規	継 ?	試験効果不足
14	SL-29	乳	(未公開)	石 原 産 業	香川・府中, 佐賀 果試	新 規	継 続	試験年次不足
15	SL-54	乳	(未公開)	石 原 産 業	香川・府中, 佐賀 果試	新 規	継 続	試験年次不足

B. 生育調節剤

薬 剤 名 〔効 果〕 〔商 品 名〕	剤 型	有効成分および 含 有 率	委 託 者	試 験 担 当 場 所 (自主試験場)	新 の 前 判 定	継 続 回 定	今 回 判 定	判定理由又は 内 容
1. NAA 〔摘 果〕 〔ナフサク・他〕 1) 気象条件(温度)と効果 2) 2回(分割)散布 3) 基礎試験 4) その他 5) 自主試験	水溶性 結 晶	α-ナフタリン 酢酸ナトリウ ム 93.8%	N A A 研 究 会 〔三 共〕 兼 商 九 州 三 共 協和醸造工業 クミアイ 化学工業 武田薬品工業 トモノ農業 日本特殊 農業製造 日 本 農 業 北興化学工業 保土谷化学工業 山 本 農 業	1) 果試・口之津, 静岡柑橋試, 愛知園研・蒲郡, 大阪農技, 和歌山果試, 広島果試, 香川農試・府中, 高知果試, 福岡園試, 熊本果試, 鹿児島果試 2) 三重農技紀南カンキツ, 奈良農試, 佐賀果試, 長崎農試, 大分柑橋試, 宮崎総農試 3) 果試・興津, 千葉大学 4) 三重農技紀南カンキツ, 山口・大島柑橋試, 熊本果試 5) 神奈川園試・根府川, 静岡柑橋試, 奈良農試, 和歌山果試, 徳島果試, 愛媛果試, 宮崎総農試	継 続			
2. J-455 〔摘 果〕	乳	5-クロロイ ンダゾール酢 酸エチルエス テル 20.0%	日産化学工業	果試・興津, 静岡柑橋試, 愛知園研蒲郡, 香川農試・府中, 福岡園試, 熊本果試, 鹿児島果試, 千葉大学 〔神奈川園試・根府川, 静岡柑橋試, 愛知園研・蒲郡, 三重農技紀南カンキツ, 奈良農試, 和歌山果試, 広島果試, 山口・大島柑橋試, 愛媛果試, 高知果試, 佐賀果試, 大分柑橋試, 鹿児島大学〕	継 続	継 続		・地域差(濃度時期について)の検討 ・減酸(効果)剤として時期濃度について検討

薬 劑 名 { 効 果 } { 商 品 名 }	剤 型	有効成分および 含 有 率	委 託 者	試 験 担 当 場 所 (自主試験場)	新 の [前 判] [判 定]	今 回 判 定	判定理由又は 内 容
3. TH-656 { 摘 果 }	液	1-(α -ナフ タレンアセチ ル)-3,5- ジメチルピラ ゾール(ピラ ゾフタレン) 5.0%	武田薬品工業	果試・興津, 奈良農 試, 和歌山果試, 広 島果試, 香川農試・ 府中, 愛媛果試, 福 岡園試, 佐賀果試, 長崎農試, 熊本果試, 宮崎総農試, 千葉大 学 〔神奈川園試・根府 川, 静岡柑橘試, 同・伊豆, 愛知園 研・蒲郡, 三重農 技・紀南カンキツ, 愛媛果試〕	継 続 〔 継 〕 5.46	継 続	・効果不安定に つき再検討
4. T-773 { 摘 果 } 1) 温州 2) 雄 柑	乳	(未公開) 20.0%	三 共	〔1〕果試・興津, 静 岡柑橘試, 愛知 園研・蒲郡, 三 重農技・紀南カ ンキツ, 奈良農 試, 和歌山果試, 広島果試, 高知 果試, 佐賀果試, 熊本果試, 大分 柑橘試, 鹿児島 果試 〔2〕果試・口之津, 静岡柑橘試・伊 豆, 奈良農試, 徳島果試・岩倉 母樹園	継 続 〔 継 〕	自 主 試 験	〔・効果不安定 ・雄柑類に対す る効果に期待 あり〕
5. ACP-68-250 生育促進(着色) エスレル	液	2-クロロエ チルホスホ ニックアシド 10.0%	2,4-D協議会 石 原 産 業 日産化学工業	果試・興津, 愛媛果 試・南予, 福岡園試, 鹿児島果試 〔神奈川園試・根府 川, 高知果試, 大 分柑橘試, 宮崎総 農試, 千葉大学〕	継 続 〔 継 〕	継 続 ?	・薬害(落葉) 防止について 検討
6. NB-18 生育促進(着色)	水 溶	DL-メチオニ ン; α -アミ ノ- γ -メチ ルチオール- n-酪酸 80.0%	日 本 曹 達	果試・興津, 神奈川 園試・根府川, 静岡 柑橘試, 和歌山果試, 四国農試 〔三重農技・紀南カ ンキツ, 広島果試, 香川農試・府中, 大分柑橘試, 宮崎〕	継 続 〔 継 〕	継 続 (?)	・効果不足 ・処理時期につ いて検討 〔但し, 着色< オレンジ色> 促進効果はみ られる。〕

薬 剤 名 { 効 果 名 }	剤 型	有効成分および 含 有 率	委 託 者	試 験 担 当 場 所 (自主試験場)	新 規 前 判	今 回 判 定	判定理由又は 内 容
				総農試, 鹿児島果 試, 千葉大学			
7. OK-302 〔収 穫〕	水 和	シクロヘキシイ ミド 1.0%	大塚化学薬品	果試・興津, 静岡柑 橘試, 和歌山果試, 広島果試, 佐賀果試, 大分柑橘試 〔 神奈川園試・根府 川, 高知果試, 宮 崎総農試, 千葉大 学, 鹿児島大学 〕	新 規	継 続 ?	・薬害あり (中止)
8. ES-1 〔生育促進(着色) 〔エチレンシープ〕〕	(吸着剤)	エチレン 5.0%	光 興 業 昭 和 電 工 ユニオン昭和	果試・興津, 大阪農 技, 愛媛果試, 高知 果試, 福岡園試, 熊 本果試, 宮崎総農試, 鹿児島果試 〔 静岡柑橘試, 高知 果試, 宮崎総農試, 千葉大学 〕	新 規	継 続	・試験年次不足 処理時期(効 果発現期)処 理方法につい て再検討
9. ACP-68-250 〔 収 穫 〕 〔 エスレル 〕 1) 温 州 2) 雑 柑	液	2-クロロ-エ チル-ホスホ ニックアシド 10.0%	2,4-D協議会 〔 石 原 産 業 〕 〔 日産化学工業 〕	1) 果試・興津, 神 奈川園試・根府川, 静岡柑橘試, 愛媛 果試 2) 和歌山果試・紀 北, 徳島果試, 同 ・岩倉母樹園 〔 果試・興津, 静岡 柑橘試, 宮崎総農 試, 千葉大学 〕	継 続	実用化 継 続	〔 ヘッサク 〕 ・収穫20日前 200~300 ppm 散布 〔 温州 〕 ・薬害(落葉) 防止について 再検討
10. CaCO ₃ 〔 品質改良 〕 〔 フレフノン 〕	水 和	炭酸カルシウム 95.0% (有機ポリマ ー等5.0%)	白石カルシウム	果試・興津, 神奈川 園試・根府川, 静岡 柑橘試, 和歌山果試, 同・紀北, 愛媛果試, 福岡園試 〔 徳島果試, 長崎農 試, 大分柑橘試, 鹿児島果試 〕	新 規	継 続	・散布時期・濃 度について再 検討
11. アビオン-E200 〔果面被膜〕	乳 (化)	パラフィン 36.0% (乳化剤・他 64.0%)	アビオン 化学研究所	(広島果試)		自 主 試 験	(効果なし)

薬 剤 名 { 効 果 名 } { 商 品 名 }	剤 型	有効成分および 含 有 率	委 託 者	試 験 担 当 場 所 (自 主 試 験 場)	新の 前判 継続 判定	今 回 判 定	判定理由又は 内 容
12. PPK-30 減 酸	水 溶	高エネルギーリ ン酸化合物 30.0%	エ ー ザ イ	果試・興津 〔神奈川県・根府 川，三重農技・紀 南カンキツ，鹿児島 島果試〕	新 規	継 続	・混剤化につい て検討 ex. PPK- 30+NAA 同+ブロン

1 除 草 剤

1. DCPA (改) 乳剤

DCPAを主剤として，これに補助剤なしに乳化剤の改良によって生育期の草にまで効果の生ずるようにした薬剤である。

47年度に実継を得ており，カンキツに薬害少なく，夏草に有効であったが，大型の草には力不足であったため，濃度についての検討が必要であった。

春草用としては不適當であり，夏草用として草丈が30cm程度までの一年生草に有効で，薬量は21～31で200lの水量が必要であった。

2. CB-712 乳剤

シプロミッドとプロモキシニルの混合剤で接触効果の増強をねらったものである。

本年の効果は春草に対して効果を認めるがグラモキソンに比してやや効果が劣るようである。とくに宿根草の再生が早い。

夏草に対しては春草より効果が高く，グラモキソンと同等であった。しかしツクサやジシバに効果が劣る。

茎葉害はグラモキソンよりやや軽い，かなり生じる。

試験を継続する必要を認め濃度と草種の検討が必要であった。

3. DCMU ブロマシル水和剤

デュボンクロバーIとして温州ミカンで継続試験をしている薬剤である。ブロマシル単用に比べ，宿根草でやや効果が劣るが，メヒシバに対しては効果が高い。しかし，草量が多い場合には問題であり，濃度試験が必要であった。

4. EH-275 (DCMU・ターバシル) 水和剤

ゾーバーとしてすでに温州ミカン用として実用化している薬剤で，宿根草に対する効果がやや劣るが，メヒシバには有効であり，300～400g/10aで実用性を認めた。雑柑類に適用を拡大できるかどうか，今後検討の余地がある。

5. SSH-36 液剤

アシュラムにアイオキシニルを加えたものでアシュラムの遅効性に連動性を付加しようとしたものである。

春草に対して宿根草に対する効果が低く，効果が不十分な場所があり，今後検討する必要がある。

夏草に対して草種によって効果を認めるが，アシュラムの効果が主であつて，アイオキシニルの効果は不明確であった。

効果がアイオキシニルの付加の必要性なく，この薬剤をこのまゝでは継続する必要は認めなかった。

6. A-3589 水和剤

アメトリンにGS-14254を混合したもので、春草に対して低濃度の効果が劣り、高濃度でも茎まで枯死しないものがあり、カモジグサは出穂していると枯れにくかった。

夏草に対して高濃度で実用性を認めるが、低濃度ではやや効果が不充分であり、草種と濃度との関係を明らかにする必要があった。

7. MON-39 (ラウンドアップ) 乳剤

本年度かなり念入りに試験をした薬剤で、水量と薬量について重点的に行なった。

春草に対し、殺草力高く実用性を認める。薬量を500, 1000ml, 水量を50, 100l/10aとして試験した結果、500mlで50l/10aで十分な効果を認めた。薬量は500ml程度でよいと考えられる。水量は、100lの区の方が50lよりも効果が高まる傾向を認めた。

夏草に対しては、効果が高かった。薬量と水量の試験では、春草と同様に薬量の多い区で効果高く、水量の多い区の方が残草量は少なかった。500mlで充分な殺草効果を示し、宿根草にも有効なことが認められた。

温州ミカンに対する茎葉害は夏に散布された葉は秋期になって激しく落葉し、枯れ枝も生じ、次年度の発芽が奇形を示した。

そこで 実用継続と判定したが、実用は生育期処理で250~500mlの薬量、水量は50~100l/10aとし、ミカンの茎葉にはかからないようにする。継続は、宿根草の草種と薬量について検討する。

8. Ametryne (アメトリン) 水和剤

アメトリンは乳剤が実用化しており、それを水和剤にして、薬剤の輸送性、経費の節減を目的にしたものである。

春草に対して一年生草種に対して殺草効果が

高いが、宿根草に効果がやや劣った。

夏草に対して、高濃度では有効であったが、低濃度ではやや効果不足であった。乳剤よりやや劣る傾向を認めた。

薬害は、温州ミカン・ナツダイダイに対しては認めなかった。

9. M & B-9057 (アシュラム) 液剤

これまで温州ミカン園で実継になっており、継続は宿根草に対する濃度と効果についてであった。

春草に対して有効だが、ヒルガオは地上部は枯死するが根から再生する。

夏草は実用性を認めるが、草種により濃度を高める必要がある。

薬害について、温州ミカンで茎葉害を認め、黄変落葉する。チガヤは、地上部が枯れるが根絶しない。

本年も実継となったが、継続は宿根に対する濃度又は薬量についてである。

10. DCBN (プレフィックス) 粒剤

DBN粒剤と同様のものであり、効果も同様のものがあると考えた。ヤブカラシに対してはDBNと同様の効果を認めたが、ヨモギ、ギンギンに対しては効果がやや劣る傾向が認められたので、継続として次年度草種と薬量について検討することにした。

11. 塩素酸塩 (クロレートソーダ) 水和剤

この薬剤も同種のもので実用登録になっているので、既存のものとの比較が主たる目的であった。

春草、夏草に対して既成クロレートソーダと同等の効果を認めた。

しかし、クロレートソーダ自身は夏草のメヒンバ、エノコログサに効果が劣り、その面では実用性については問題があった。

1 2. DCBN・MCP粒剤

2 薬剤の混合で宿根草をより適確に枯死させることをねらったが、DBN剤の効果が主として顕われ、MCP剤の効果は認めなかった。

1 3. RE-75水和剤

DCMUに似た性質をもつ薬剤であるが、大型の草(30cm)に効果がなく、カンキツ園では実用性が認められなかった。

1 4. SL-29乳剤

新規薬剤であるが、草種、草量によっては有効であり、土壌処理害が認められないところから検討の余地がある。茎葉害は若干認めるが、グラモキソンより軽い。

1 5. SL-54乳剤

SL-29より効果はやや高く、春草用として実用性を認める。夏草に対して有効だが、草種と濃度について試験を行なう必要を認めたが、抑草期間の短いことが問題であろう。

II 生育調節剤

1. NAA

A. 気象条件の試験

処理日から7日程度の高温で過摘果が生じており、処理後3～5日が強く影響されることが明らかとなった。

B. 2回散布(分割散布)

満開後20～30日にNAAの50～100ppmを散布しておき、その後第2次生理落果が落ち着いた頃(40～50日)に50～100ppmを再散布する手法であり、このことにより若木の過摘果を示しやすい樹に対しては有効であることが認められた。この手法は、成木では実用化できそうであるので、次年度行なう予定である。

C. NAAの自主試験で、サマーオイルとの近接散布で過摘果が生じており、これの前後散布は注意を要することが提起され、次年度で試験を行なうことになった。

2. J-455乳剤

満開後40日に50～100ppmで有効であり、50～60日でも100～200ppmでかなり有効であった。それも地域差がかなり認められるため、今後の検討が必要である。

減酸効果が認められるため、次年度の検討課題とした。

3. TH-656液剤

全摘果剤として満開後20～30日に100～200ppmで結実率を10%以下とすることが出来、もし生産調整剤が必要であれば、この薬剤が最も実用性があると考えられた。

間引摘果剤としては50～60日に200～300ppmが有効であったが、一部に過摘果が生じた。今後の使用条件の検討が必要であろう。

4. T-773乳剤

全摘果剤として満開後20～40日で200ppm程度が有効であった。

間引摘果剤としては、30日目の50ppm、50日目の100ppm程度で再試験が必要であろう。

雑柑に対する効果のうち、甘夏柑に対しては30日後の100ppmが有効であった。福原オレンジでは認められない。ハッサクに対しては有効だが今後の検討が必要であった。

5. ACP-68-250(エスレル)液剤 (着色剤)

着色効果は認めるが、落葉に問題があったが本年も落葉が少なく、着色効果のある手法はなく、低濃度の3回散布を今後検討することにな

った。

6. NB-18水溶剤

メチオニンのエチレン効果をねらったものであるが、効果は認められなかった。

7. OK-302水和剤

収穫剤としてアメリカで有効であるが、温州ミカンでは薬害が激しく、実用性は認めなかった。

8. ES-1吸着剤

エチレンシブスは着色に有効であるが、ダンボール内での処理は無理があり、処理方法について今後検討して、再試験を行なうこととした。

9. ACP-68-250(エスレル)液剤 (収穫剤)

ハッサクについては50ppmの2回処理が有効で、収穫20日と10日処理が完全離層形

成果が100%となった。

そこで、ハッサクの収穫剤については実用とした。

温州ミカンに対しては落果減減法の検討が必要であった。

10. CaCO₃(クレフノン)水和剤

収穫前処理によって予措効果が認められた。浮皮防止効果を認められ、果皮硬度も高くなることから、今後検討の必要性を認めた。

11. アビオン-E200乳剤

冬期の落葉防止などの効果は、認められなかった。

12. PPK-30水溶剤

これだけでは減的効果は認められないが、NAAなどとの組み合わせで減的効果を認めた。今後検討の必要性を認める。

昭和49年度新供試除草剤・生育調節剤一覧表

財団法人 日本植物調節剤研究協会

当協会では、昭和49年度夏作関係除草剤・生育調節剤委託試験に供試する各社の委託申請を、先に締切り、これら試験実施場所を決定した。

本年度の供試薬剤数を、対象別にみると、第1表の通りである。次に、本年度供試された薬剤のうち、新規委託のものについて、その有効成分及び委託者を示すと、第2表の通りである。

<第1表> 昭和49年度対象別供試薬剤一覧表

(昭和49年5月10日 現在)

区 分 ・ 対 象	供 試 薬 剤 数	区 分 ・ 対 象	供 試 薬 剤 数	区 分 ・ 対 象	供 試 薬 剤 数
水稻除草剤		野菜・花き除草剤		果樹除草剤	
作用特性	19	[春夏作] 野菜一般	3	ブドウ	4
作用性・変動要因	10	カンラン	11	カキ	1

区 分 ・ 対 象	供 試 薬剤数	区 分 ・ 対 象	供 試 薬剤数	区 分 ・ 対 象	供 試 薬剤数
水稻除草剤(つづき)		野菜・花き除草剤(つづき)		果樹除草剤(つづき)	
第1次適用性	20	〔春夏作〕 ホウレンソウ	2	ナ シ	1
第2次適用性：成苗移植	46	レ タ ス	5	果樹生育調節剤 カンキツ	7
稚苗移植	39	アスバラガス	3	リ ン ゴ	9
湛水直播	2	ネ ギ	3	カ キ	1
乾田直播	5	タ マ ネ ギ	7	モ モ	1
畦 畔	3	ト マ ト	1	オウトウ	1
耕 起 前	2	キュウリ	2	茶園関係 除 草 剤	2
非農耕地・休耕地	2	ス イ カ	3	生育調節剤	4
水稻生育調節剤	14	イ チ ゴ	5	桑園関係 除 草 剤	11
畑作除草剤		ダイコン	1	生育調節剤	5
定性スクリーニング	3	ニンジン	7	芝生関係 除 草 剤	22
作用性	15	ショウガ	2	〔春夏作〕 生育調節剤	1
適用性：大 豆	9	ヤマイモ	3	林業関係 除 草 剤	3
小 豆	3	苗木一般	1	生育調節剤	5
菜 豆	7	ユ リ	1	牧野草地関係 除 草 剤	1
カンショ	4	(除草資材) ダイコン	1		
トウモロコシ	2	野菜・花き生育調節剤		農薬残留量分析 既 登 録	10
ラッカセイ	8	タ マ ネ ギ	1	〃 新 規	41
テンサイ	9	ト マ ト	2	農薬土壌残留量分析	18
バレイショ	3	キュウリ	1		
サトウキビ	1	ブリンズメロン	1	展 示 圃 水 稲	55
畑作生育調節剤		イ チ ゴ	2	畑 作	1
大 豆	1	カ ブ	1	果 樹	1
小 豆	1	サ ツ キ	2		
菜 豆	1	バ ラ	1		
ラッカセイ	1	果樹除草剤 カンキツ	17		
バレイショ	1	リ ン ゴ	7		
パイナップル	1				

＜第2表＞ 昭和49年度新供試薬剤成分一覧表

区 分	薬 剤 名 { 種 類 名 } 商 品 名	剤 型	成 分 お よ び 含 有 率	対 象	委 託 会 社
①水稻 除草剤	MT-120	粒	(ジフェニルエーテル系化合物) 7%	作用性(作1~4)	三井東圧化学
	MT-220	粒	・(MT-120：ジフェニルエーテル系) 7% ・(尿素系化合物) 7%	作用性(作1~4)	同 上

区 分	薬 剤 名 { 種 類 名 } { 商 品 名 }	剤型	成 分 お よ び 含 有 率	対 象	委 託 会 社
①水稲 除草剤 (つづき)	NTN-80・K・M 〔(NTN-80)・フ ルウロチウロン・MC PB〕	粒	・(NTN-80):0-メチル-0- (2-ニトロ-パラトリル)N-イ ソプロピル-ホスホロアミドチオネー ト ・フルウロチウロン(KUE-2079・ A):N-(3-クロロ-4-ジフルオ ロクロルメチルチオフェニル)N',N' -ジメチル尿素 ・MCPB:r-(2-メチル-4-クロ ルフェノキシ)酪酸・エチルエステル	作用性(作1~4)	日本特殊農薬製造
	NP-27	水和	(新合成化合物) 70%	作用性(作1~4)	日 本 曹 達
	NP-31	乳	(新合成化合物) 50%	作用性(作1~4)	日 本 曹 達
	CG-780	粒	(尿素系化合物) 2.5%	作用性(作1~4)	日本チバガイギー
	DPX-4145	粒	(未 公 開) 5%	作用性(作1~4)	デュボン・ ファーイースト (日本支社)
	RH-2915	乳	(ジフェニルエーテル系化合物) 24%	作用性(作1~4)	三 洋 貿 易
	RH-2915	粒	(同 上) 2%	作用性(作1~4)	同 上
	RH-2915・SM	粒	・(RH-2915:ジフェニルエーテル 系) 1% ・(SM:未公開) 11%	作用性(作1~4)	同 上
	HOK-73	粒	・フェノチオール:2-メチル-4-クロ ルフェノキシチオ酪酸-S-エチル 0.7% ・(MC-79:ジフェニルエーテル系) 7% ・(既知化合物) 8%	作 用 性	北興化学工業
	HW-34・D	乳	(未 公 開) 60%	作用性(作1~4)	保土谷化学工業
	M-851 〔オキサジアゾン・ (MBR-8251)〕	乳	・オキサジアゾン(G-315):5-ター シャリ-ブチル-3-(2,4-ジクロ ル-5-イソプロポキシフェニル)-1, 3,4-オキサジアゾリン-2-オン 8%	作用性 (作1)	日産化学工業

区 分	薬 剤 名 { 種 類 名 } { 商 品 名 }	剤型	成 分 お よ び 含 有 率	対 象	委 託 会 社
水稻 除草剤 (つづき)	M-351 (つづき)		・ (MBR-8251) : 1,1,1-トリフ ルオロ-4-(フェニルスルホニル) メタンスルホノ-0-トリイダイド 14%		
	N-301 [オキサジアゾン・ モリネート・MCPB]	粒	・ オキサジアゾン (G-315) : 5-タ ーシャリーブチル-3-(2,4-ジク ロル-5-イソプロポキシフェニル) -1,3,4-オキサジアゾリン-2-オ ン 1% ・ モリネート : S-エチル-ヘキサヒドロ -1H-アゼピン-1-カーボチオエ ート 8% ・ MCPB : 2-メチル-4-クロルフェ ノキシ酪酸エチル 0.8%	作用性(作1~2)	日 産 化 学 工 業
	SW-741 [(H-686)・ シメトリン]	粒	・ (H-686) : 2-(N-イソプロピ ル, N-4-クロルフェニルカーバモ イル)-4-クロロ-メチル-4-イ ソキサゾリン-3-オン 0.7% ・ シメトリン : 2-メチルチオ-4,6-ビ スエチルアミノ-s-トリアジン 1.5%	作用性(作1~4)	三 共
	TH63 (Na塩) [ビペロホス・ジメタメ トリン・ペンタゾン]	粒	・ ビペロホス (CG-7102) : S- (2-メチル-1-ビペリジル-カル ボニルメチル)-0,0-ジ-n-ブ ロビルジチオホスフェート 4.4% ・ ジメタメトリン (CG-7103) : 2 -メチルチオ-4-エチルアミノ-6 -(1,2-ジメチルプロピルアミノ) -s-トリアジン 1.1% ・ ペンタゾン (BAS-3510) : 3- イソプロピル-2,1,3-ベンゾチアジ アジノン-(4)-2,2-ジオキシド (Na塩) 1.0%	作用性(作1~4) 変 動 要 因	TH63 研究会 [武田薬品工業 日本チバガイギー B・A・S・F]
	RH-2915	粒	(ジフェニルエーテル系化合物) 2%	作用性(作1~4) 変 動 要 因	三 洋 貿 易
	B-3015・ BAS・MCPB [ベンチオカーブ・ペ ンタゾン・MCPB]	粒	・ ベンチオカーブ (B-3015) : S- (4-クロルベンジル)N,N-ジエ チルチオールカーバメート 10.0% ・ ペンタゾン (BAS-3510) : 3- イソプロピル-2,1,3-ベンゾチアジ	第1次適用性	クミアイ化学工業

区 分	薬 剤 名 { 種 類 名 }	剤 型	成 分 お よ び 含 有 率	対 象	委 託 会 社
水稻 除草剤 (つづき)			アジノン-(4)-2,2-ジオキシド 70 % ・ MCPB : γ -(2-メチル-4-クロ ルフェノキシ) 酪酸エチルエステル 0.8 %		
	MT・B-3015 ・ MCPB 〔(MT-101)・ベ ンチオカーブ・ MCPB〕	粒	・ (MT-101) : α -(β -ナフトキ シ) プロピオンアミド 7 % ・ ベンチオカーブ (B-3015) : S- (4-クロルベンジル) N, N-ジエ チルチオールカーバメート 7 % ・ MCPB : γ -(2-メチル-4-クロ ルフェノキシ) 酪酸エチルエステル 0.7 %	第1次適用性	クミアイ化学工業 三井東洋化学
	RH-2915	粒	(ジフェニルエーテル系化合物) 2 %	第1次適用性 (成苗・稚苗)	三 洋 貿 易
	RH-2915	乳	(同 上) 24 %	第1次適用性 (成苗・稚苗)	同 上
	RH-2915・SM	粒	・ (RH-2915 : ジフェニルエーテル 系) 1 % ・ (SM : 未公開) 11 %	第1次適用性 (成苗・稚苗)	三 洋 貿 易
	HOK-73	粒	・ フェノチオール : 2-メチル-4-クロ ルフェノキシ酪酸-S-エチル 0.7 % ・ (MC-79 : ジフェニルエーテル系) 7 % ・ (既知化合物) 8 %	第1次適用性 (稚 苗)	北 興 化 学 工 業
	NTN-80・KM 〔(NTN-80)・フ ルウロチウロン・ MCPB〕	粒	・ (NTN-80) : 0-メチル-0- (2-ニトロ-パラトリル) N-イ ソプロピルホスホロアミドチオネー ト ・ フルウロチウロン (KUE-2079・ A) : N-(3-クロロ-4-フルオロ クロルメチルチオフェニル) N', N'- ジメチル尿素 ・ MCPB : γ -(2-メチル-4-クロ ルフェノキシ) 酪酸エチルエステル	第1次適用性 (稚 苗)	日本特殊農薬製造
	DPX-4145	粒	(未 公 開) 5 %	第1次適用性 (成 苗)	デュボン・ファーマー スト (日本支社)

区 分	薬 剤 名 { 種 類 名 } { 商 品 名 }	剤型	成 分 お よ び 含 有 率	対 象	委 託 会 社
水稲 除草剤 (つづき)	SL-041	液	(未 公 開) 10%	第1次適用性 (成 苗)	石 原 産 業
	SL-042	液	(未 公 開) 10%	第1次適用性 (成 田)	石 原 産 業
	N-301 [オキサジアゾン・モ リネート・MCPB]	粒	・オキサジアゾン (G-315) : 5-ター シャリーブチル-3-(2,4-ジク ロル-5-イソプロボキシフェニル) -1,3,4-オキサジアゾリン-2-オ ン 1% ・モリネート : S-エチル-ヘキサヒド ロ-1H-アゼピン-1-カーボチオエ ート 8% ・MCPB : 2-メチル-4-クロルフェ ノキン酸エチル 0.8%	第1次適用性 (成 苗)	日 産 化 学 工 業
	M-351 [オキサジアゾン・ (MBR-8251)]	乳	・オキサジアゾン : 5-ターシャリーブチ ル-3-(2,4-ジクロル-5-イソ プロボキシフェニル)-1,3,4-オキ サジアゾリン-2-オン 8% ・(MBR-8251) : 1,1,1-トリフ ルオロ-4'- (フェニルスルホニル) メタンスルホノ-0-トリイダイド 1.4%	第1次適用性 (成 田)	日 産 化 学 工 業
	MT-120	粒	(ジフェニルエーテル系化合物) 7%	第1次適用性 (成苗・稚苗)	三 井 東 田 化 学
	MT-220	粒	・(MT-120 : ジフェニルエーテル系) 7% ・(尿素系化合物) 7%	第1次適用性 (稚 苗)	三 井 東 田 化 学
	CG-780	粒	(尿素系化合物)	第1次適用性 (稚 苗)	日 本 チ バ ガ イ ギ ー
	SW-741 [(H-686)・ シメトリン]	粒	・(H-686) : 2-(N-イソプロビ ル, N-4-クロルフェニルカーバモ イル)-4-クロロ-5-メチル-4 -イソキサゾリン-3-オン 0.7% ・シメトリン : 2-メチルチオ-4,6-ビ スエチルアミノ-S-トリアジン 1.5%	第1次適用性 (稚 苗)	三 共

区 分	薬 剤 名 { 種 類 名 } 商 品 名	剤型	成 分 お よ び 含 有 率	対 象	委 託 会 社
水稲 除草剤 (つづき)	M-351 [オキサジアゾン・ (MBR-8251)]	乳	・オキサジアゾン (G-315) : 5-タ ーシャリーブチル-3-(2,4-ジク ロール-5-イソプロポキシフェニル) -1,3,4-オキサジアゾリン-2-オ ン 8 % ・(MBR-8251) : 1,1,1-トリフ ルオロ-4'-(フェニルスルホニル) メタンスルホノ-0-トリイタイド 14 %	移 植 本 田 (成 苗)	日産化学工業
	RH-2915	粒	(ジフェニルエーテル系化合物) 2 %	移 植 本 田 (成 苗)	三 洋 貿 易
	RH-2915	乳	(同 上) 24.0 %	移 植 本 田 (成 苗)	同 上
	TH63 (Na塩) [ビペロホス・ジメタメ トリン・ベンタゾン]	粒	・ビペロホス (CG-7102) : S- (2-メチル-1-ビペリジル-カル ボニルメチル)-0,0-ジ-n-プロ ピルジチオホスフェート 4.4 % ・ジメタメトリン (CG-7103) : 2- メチルチオ-4-エチルアミノ-6- (1,2-ジメチルプロピルアミノ) -s-トリアジン 1.1 % ・ベンタゾン (BAS-3510) : 3- イソプロピル-2,1,3-ベンゾチアジ アジノン-(4)-2,2-ジオキシド (Na塩) 10 %	移 植 本 田 (成 苗)	TH63研究会 [武田薬品工業] 日本チバガイギー B・A・S・F
	N-801 [オキサジアゾン・モリ ネート・MCPB]	粒	・オキサジアゾン (G-315) : 5-タ ーシャリーブチル-3-(2,4-ジク ロール-5-イソプロポキシフェニル) -1,3,4-オキサジアゾリン-2-オ ン 1 % ・モリネート : S-エチル-ヘキサヒドロ -1H-アゼピン-1-カーボチオエ ート 8 % ・MCPB : 2-メチル-4-クロルフェ ノキシ酪酸エチル 0.8 %	移 植 本 田 (成 苗)	日産化学工業
	MCP・BAS [MCP・ベンタゾン]	液	・MCP : 2-メチル-4-クロルフェ ノキシ酢酸ナトリウム 6 % ・ベンタゾン (BAS-3510) : 3- イソプロピル-2,1,3-ベンゾチアジ	移 植 本 田 (成 苗)	日産化学工業 石 原 産 業

区 分	薬 剤 名 { 種 類 名 } { 商 品 名 }	剤型	成 分 お よ び 含 有 率	対 象	委 託 会 社
水稲 除草剤 (つづき)			アジノン(4)-2,2-ジオキンド (Na塩) 30%		
	MCP・BAS・Na [MCP・ペンタゾン]	粒	・MCP: 2-メチル-4-クロルフェノ キシ酢酸エチル 1.5% ・ペンタゾン(BAS-3510): 3- イソプロピル-2,1,3-ベンゾチアジ アジノン(4)-2,2-ジオキンド (Na塩) 10%	移 植 本 田 (成 苗)	日産化学工業 石原産業
	2,4-D・BAS・Na [2,4PA・ペンタゾン]	粒	・2,4PA: 2,4-ジクロルフェノキシ酢 酸エチル 1.5% ・ペンタゾン(BAS-3510): 3- イソプロピル-2,1,3-ベンゾチアジ アジノン(4)-2,2-ジオキンド (Na塩) 10%	移 植 本 田 (成 苗)	日産化学工業 石原産業
	RH-2915	粒	(ジフェニルエーテル系化合物) 2%	移 植 本 田 (稚 苗)	三 洋 貿 易
	RH-2915	乳	(同 上) 24%	移 植 本 田 (稚 苗)	同 上
	X-52 [クロメトキシニル エックスゴーニ]	水和	2,4-ジクロルフェニル-3'-メトキシ- 4'-ニトロフェニルエーテル 7%	移 植 本 田 (稚 苗)	エックス・ゴーニ 協議会 [日本農薬] [石原産業]
	X-52・KUE [クロメトキシニル・フ ルウロチウロン]	水和	・クロメトキシニル(X-52): 2,4- ジクロルフェニル-3'-メトキシ-4'- ニトロフェニルエーテル 70% ・フルウロチウロン(KUE-2079・ A): N-(3-クロロ-4-ジフルオ ロクロルメチルチオフェニル)N', N' ジメチル尿素 20%	移 植 本 田 (稚 苗)	エックス・ゴーニ 協議会 [日本農薬] [石原産業]
	SMZ [シメトリン・ MCPB・(Z)]	粒	・シメトリン: 2-メチルチオ-4,6-ビ スエチルアミノ-S-トリアジン 1.5% ・MCPB: 2-メチル-4-クロルフェ ノキシ酢酸エチル 1% ・(Z:未公開) 3%	移 植 本 田 (稚 苗)	日 本 化 薬

区 分	薬 剤 名 { 種 類 名 }	剤型	成 分 お よ び 含 有 率	対 象	委 託 会 社
水稲 除草剤 (つづき)	B-3015・ BAS・MCPB 〔ペンチオカーブ・ベン タゾン・MCPB〕	粒	・ペンチオカーブ (B-3015) : S- (4-クロロベンジル)N, N-ジエ テルチオールカーバメート 10% ・ベンタゾン (BAS-3510) : 3- イソプロピル-2,1,3-ベンゾチアジ アジノン-(4)-2,2-ジオキンド 7% ・MCPB : 2-(2-メチル-4-クロ ルフェノキシ) 酪酸エチルエステル 0.8%	移 植 本 田 (稚 苗)	タミアイ化学工業
	SW-741 〔(H-686)・ シメトリン〕	粒	・(H-686) : 2-(N-イソプロピル N-クロルフェニルカーバモイル)- 4-クロロ-5-メチル-4-イソキ サゾリン-3-オン 0.7% ・シメトリン : 2-メチルチオ-4,6-ビ スエチルアミノ-s-トリアジン 1.5%	移 植 本 田 (稚 苗)	三 共
	SW-742	粒	・(H-686) : 2-(N-イソプロピ ル, N-クロルフェニルカーバモイル) -4-クロロ-5-メチル-4-イソ キサゾリン-3-オン 0.7% ・シメトリン : 2-メチルチオ-4,6-ビ スエチルアミノ-s-トリアジン 1.5% ・(SK-23) : 1-(2-フェニル- 2-プロピル)-3-(パラトリル) 尿素 6.0%	移 植 本 田 (稚 苗)	三 共
	SW-743	粒	・(H-686) : 2-(N-イソプロピ ル, N-クロルフェニルカーバモイル) -4-クロロ-5-メチル-4-イソ キサゾリン-3-オン 0.7% ・シメトリン : 2-メチルチオ-4,6-ビ スエチルアミノ-s-トリアジン 1.5% ・(U-67) : 3,4,5-トリプロモ-N, N, α-トリメチルピラゾール-1- アセトアミド 5.0%	移 植 本 田 (稚 苗)	三 共
	paraquat + 起泡剤 〔パラコート + (起泡剤)〕	液	・パラコート : 1,1'-ジメチル-4,4'-ビ ビリジウムジクロリド 24% ・起泡剤 : 非イオン系界面活性剤 60%	畦 畔	フォームスプレー 研究会 〔日本農薬 武田薬品工業 全 農〕

区 分	薬 剤 名 (種 類 名) (商 品 名)	剤型	成 分 お よ び 含 有 率	対 象	委 託 会 社
水稻 除草剤 (つづき)	NP-24	水和	(新合成化合物) 40%	非農耕地 休耕地	日本曹達
②水稻 生育調 節剤	ベンジルアミノプリン 〔(活着促進・ 老化防止) ベンジルアデニン〕	液	・N ⁰ -ベンジルアミノプリン 3%	水 稲	クミアイ化学工業
	ボーマン-P 〔(活性ケイ素・ 活性アミノ酸) (成長促進・ 品質改善)〕	粉	・二酸化ケイ素(SiO ₂) 0.015% 魚 成 分 0.8%(乾燥重) 酸化カルシウム(CaO) 6.0%以上	水 稲	国際化成公社
	ボーマン-L 〔(同 上) (同 上)〕	液	・二酸化ケイ素(SiO ₂) 0.008% 魚 成 分 2%(水溶液) 酸化カルシウム 400ppm	水 稲	同 上
	インドール酪酸 〔(発根促進・ 健苗育成) オキシベロン液剤, IBA〕	液	・インドール酪酸 0.4%	水稻(稚苗)	塩野義製薬
③畑作 除草剤	S-28 〔(有機リン系) クレマート〕	乳	・0-エチル-0-(3-メチル-6-ニ トロフェニル)-N-セカンダリーブ チルホスホロチオアミデート 50%	定性スクリーニング	住友化学工業
	S-97	乳	(酸アミド系化合物) 25%	定性スクリーニング	住友化学工業
	SSH-40	水和	(未 公 開) 80%	定性スクリーニング	塩野義製薬
	S-28 〔(有機リン系) クレマート〕	乳	・0-エチル-0-(3-メチル-6-ニ トロフェニル)-N-セカンダリーブ チルホスホロチオアミデート 50%	作 用 性 (大 豆)	住友化学工業
	S-97	乳	(酸アミド系化合物) 25%	作 用 性 (てんさい)	住友化学工業
	SSH-36 〔アシュラム・ アイオキシニル アシュメックス 液剤〕	液	・アシュラム(M&B-9057):N'- メトキシカルボニルスルファニルアマ イド(Na塩)(20%) ・アイオキシニル:3,5-ジオード-ヒド ロキシベンゾニトリル(Na塩)(3%) 23%	作 用 性 (大豆,小豆,菜豆)	塩野義製薬

区 分	薬 剤 名 { 種 類 名 } 商 品 名	剤型	成 分 お よ び 含 有 率	対 象	委 託 会 社
畑作 除草剤 (つづき)	SLH-38 (酸アミド系)	水和	・ N ⁴ , N ⁴ - ジ - n - プロピル - 3,5 - ジ ニトロスルファニルアミド 75%	作 用 性 (大豆,小豆,菜豆)	塩 野 義 製 薬
	C B N [CBN カルバイン]	乳	・ 4 - クロル - 2 - ブチニル - N - (3 - クロルフェニル) カーバメート 11.8%	作 用 性 (シバムギ対象)	武田薬品工業
	U-67 (酸アミド系)	水和	・ 3,4,5 - トリブロム - N, N, α - トリ メチルピラゾール - 1 - アセトアミド 75%	作 用 性 (て ん 菜)	武田薬品工業 日本アップジョン
	U-67 (酸アミド系)	粒	同 上 85%	作 用 性 (て ん 菜)	同 上
	MC-79 (ジフェニル エーテル系)	乳	・ 2,4 - ジクロルフェニル - 3' - カーボメ トキシ - 4' - ニトロフェニルエーテル 20%	大 豆	モーダウン研究会 [モービル石油] 北興化学工業 八洲化学工業
	NP-28 [(NP-24) + ペンタゾン]	水和	・ NP-24 (新合成化合物) + ペンタゾ ン (3 - イソプロピル - 2,1,3 - ベン ゾチアジアジノン - (4) - 2,2 - ジオキ サイド) 30% + 15%	大 豆	日 本 曹 達
	B-3015・L [ベンチオカーブ ・ リニュロン]	乳	・ ベンチオカーブ (B-3015) : S - (4 - クロルベンジル) - N, N - ジ エチルチオールカーバメート 50% ・ リニュロン : 3 - (3,4 - ジクロルフェ ニル) - 1 - メトキシ - 1 - メチル尿 素 5%	大 豆	クミアイ化学工業
	S-28 [(有機リン系) クレマート]	乳	・ 0 - エテル - 0 - (3 - メチル - 6 - ニ トロフェニル) - N - セカンダリブ チルホスホロチオアミデート 50%	大 豆	住友化学工業
	ANK-553	乳	・ N - (1 - エチルプロピル) - 2,6 - ジ ニトロ - 3,4 - キシリジン 30%	大 豆	ANK 研究会 [日 本 農 薬] クミアイ化学工業 日本サイアナミッド
	SKH-01 [シアナジン グラメックス]	水和	・ 2 - (4 - クロロ - 6 - エチルアミノ - s - トリアジン - 2 - イルアミノ) - 2 - メチルプロピオニトリル 50%	小 豆	シエル化学 石 原 産 業
	NP-24	水和	(新合成化合物) 40%	菜 豆	日 本 曹 達

区 分	薬 剤 名 { 種 類 名 } { 商 品 名 }	剤型	成 分 お よ び 含 有 率	対 象	委 託 会 社
畑作 除草剤 (つづき)	BAS-3510 〔ベンタゾン バサグラン水和剤〕	水和	・3-イソプロピル-2,1,3-ベンゾチア ジアジノン-(4)-2,2-ジオキソド 50%	菜 豆	住友化学工業 北 海 三 共
	diphenamid 〔ジフェナミド エナイド〕	水和	・N,N-ジメチル-2,2-ジフェニルア セトアミド 50%	カ ン シ ョ	山 本 農 薬
	SD-11831 〔ニトラリン ブラナビアン 微粒剤〕	微粒	・4-(メチルスルフォニル)-2,6-ジ ニトロ-N,N-ジプロピルアニリン 2.5%	ラ ッ カ セ イ	ブラナビアン普及会 〔シエル化学 北興化学工業 三 共 サンケイ化学〕
	NK-049・P 〔メトキシフェノン ・プロメトリン〕	水和	・メトキシフェノン(NK-049):3, 3'-ジメチル-4-メトキシベンゾフ ェノン 70% ・プロメトリン:2-メチルチオ-4,6- ビスイソプロピルアミノ-s-トリ ア ジン 10%	ラ ッ カ セ イ	日 本 化 薬
	NP-23	乳	(新合成化合物) 30%	ラ ッ カ セ イ	日 本 曹 達
	NP-24	水和	(新合成化合物) 40%	ラ ッ カ セ イ	同 上
	ANK-553	乳	・N-(1-エチルプロピル)-2,6-ジ ニトロ-3,4-キシリジン 30%	ラ ッ カ セ イ	ANK研究会 〔日本農薬 クミアイ化学工業 日本サイアミッド〕
	S-97	乳	(酸アミド系化合物) 25%	て ん 菜 (直 播)	住友化学工業
	S-97	乳	同 上 25%	て ん 菜 (移 植)	同 上
	HSW-4901 〔フェンメディファム ベタナール〕	水和	・3-メトキシカーボニルアミノフェニル -N-(3'-メチルフェニル)カーバ メート 60%	て ん 菜 (直 播)	北 海 三 共
	同 上	水和	同 上	て ん 菜 (移 植)	同 上
	NP-24	水和	(新合成化合物) 40%	て ん 菜 (移 植)	日 本 曹 達

区 分	薬 剤 名 { 種 類 名 } { 商 品 名 }	剤 型	成 分 お よ び 含 有 率	対 象	委 託 会 社
畑作 除草剤 (つづき)	NP-33	水和	・ NP-24 (新合成化合物) + 既知化合物 (10+40)%	て ん 菜 (移 植)	日 本 曹 達
	U-67 (酸アミド系)	水和	・ 3,4,5-トリブロム-N,N,α-トリ メチルピラゾール-1-アセトアミド 75%	て ん 菜 (移 植)	武田薬品工業 日本アップジョン
	prometryne [プロメトリン ゲザガード水和剤]	水和	・ 2-メチルチオ-4,6-ビス(イソプロ ピルアミノ)-s-トリアジン 50%	バ レ イ シ ョ	日 本 化 薬
	NTN-70 [(トリアジン系) センコール]	水和	・ 4-アミノ-6-ターシャリーブチル- 3-(メチルチオ)-1,2,4-トリア ジン-5-(4H)-オン 50%	サ ト ウ キ ビ	日本特殊農業製造
④畑作生 育調節剤	31603-S {Bendroquinone} (増収)	水和	・ 2-ベンズイミドイル-3-ヒドロキシ -1,4-ナフトキノン 9.0%	バレイショ(男爵)	塩 野 義 製 薬
	同 上		同 上	ラ ッ カ セ イ	同 上
	EDPD [ジクワット (乾燥・収穫) レグロックス]	液	・ ジクワットジブロמיד 30%	大豆, 菜豆, 小豆	I・C・I 日 本 農 薬 武田薬品工業
	ACP-68-250 [(生育調節) エスレル]	液	・ 2-クロロ-エチレン-ホスホニックア シド 10%	パイナップル	2,4-D協議会 [石原産業] [日産化学工業]
⑤野菜・ 花き 除草剤	SL-041	水和	(未公開) 40.0%	野 菜 一 般	石 原 産 業
	SL-38	乳	(未公開) 20.0%	野 菜 一 般	石 原 産 業
	SL-55	乳	(未公開) 25.0%	野 菜 一 般	石 原 産 業
	A-820	乳	・ N-セカンダリーブチル-4-ターシャ リーブチル-2,6-ジニトロアニリン 48%	カンラン(移植)	2,4-D協議会 [石原産業] [日産化学工業]
	ANK-553	乳	・ N-(1-エチルプロピル)-2,6-ジ ニトロ-3,4-キシリジン 30%	カンラン(移植)	A N K 研 究 会 [クミアイ化学工業] 日 本 農 薬 日本サイアナミッド]

区 分	薬 剤 名 { 種 類 名 } { 商 品 名 }	剤型	成 分 お よ び 含 有 率	対 象	委 託 会 社
野菜・花 き除草剤 (つづき)	DAC-893 [TCTP ダクタール]	水和	・ジメチルテトラクロロテレフタレート 75%	カンラン(移植)	昭和ダイヤモンド化学
	EDPD [ジクワット レグロックス]	液	・ジクワットジプロミド 30%	カンラン(移植)	I . C . I 武田薬品工業 日本農薬
	NTN-80	水和	・0-メチル-0-(2-ニトロローバラート リル)N-イソプロピルホスホロ アミドチオエート 60%	カンラン(移植)	日本特殊農薬製造
	U-27・267	粒	・3,4,5-トリブロム-N,N,α-トリ メチルピラゾール-1-アセトアミド 85%	カンラン(移植)	日本アップジョン
	S-97	乳	(酸アミド系化合物) 25%	ハウレンソウ(露地)	住友化学工業
	DAC-893 [TCTP ダクタール]	水和	・ジメチルテトラクロロテレフタレート 75%	レタス(移植, 露地マルチ)	昭和ダイヤモンド化学
	NTN-80	水和	・0-エチル-0-(2-ニトロローバラート リル)N-イソプロピルホスホロ アミドチオエート 60%	レタス(移植, 露地マルチ)	日本特殊農薬製造
	paraquat+起泡剤 [パラコート+起泡剤] (グラモキソン +起泡剤)	液	・パラコート:1,1'-ジメチル-4,4'-ビ ピリジリウムジクロライド 24% ・起泡剤:非イオン系界面活性剤 60%	レタス(直はん)	フォーム・ スプレー研究会 [日本農薬] 武田薬品工業 全農
	NTN-70 [(トリアジン系)] [センコール]	水和	・4-アミノ-6-ターシャリーブチル- 3-(メチルチオ)-1,2,4-トリア ジン-5-(4H)-オン 50%	アスパラガス(露地)	日本特殊農薬製造
	SSH-36 [アシュラム・ アイオキシニル アシュメックス]	液	・アシュラム(M&B-9057):N- メトキシカルボニルスルファニルアミ ド(Na塩) ・アイオキシニル:3,5-ジ-4- オクタノイルオキシベンゾニトリル (Na塩) 23%	アスパラガス(露地)	塩野義製薬

区 分	薬 剤 名 { 種 類 名 } { 商 品 名 }	剤 型	成 分 お よ び 含 有 率	対 象	委 託 会 社
野菜・花 き除草剤 (つづき)	DAC-893 [TCTP] ダクタール	水和	・ジメチルテトラクロルテレフタレート 75%	ネギ(露地・苗床)	昭和ダイヤモンド化学
	PL [レナシル・PAC] レナバック	水和	・レナシル:3-シクロヘキシル-5,6- トリメチレンウラシル(40%) ・PAC:1-フェニル-4-アミノ-5- クロルピリダジン-6(30%) 70%	ネギ(露地・苗床)	北興化学工業
	HSW-493 [PAC・CIPC]	水和	・PAC:5-アミノ-4-クロル-2- フェニル-3-ピリダゾン(20%) ・CIPC:イソプロピル-N-(3- クロルフェニル)カーバメート(20%) 40%	タマネギ(移植)	北海三共
	PL [レナシル・PAC] レナバック	水和	・レナシル:3-シクロヘキシル-5,6- トリメチレンウラシル(40%) ・PAC:1-フェニル-4-アミノ-5- クロルピリダジン-6(30%) 70%	タマネギ(移植)	丸和バイオケミカル 北興化学工業
	DAC-893 [TCTP] ダクタール	水和	・ジメチルテトラクロルテレフタレート 75%	キュウリ(露地)	昭和ダイヤモンド化学
	NTN-80	水和	・0-エチル-0-(2-ニトロ- パラ-トリル)N-イソプロピル- ホスホロアミドチオエート 60%	キュウリ(露地)	日本特殊農薬製造
	U-27・267	粒	・3,4,5-トリブロム-N,N, α -トリ メチルピラゾール-1-アセトアミド 85%	スイカ(露地)	日本アップジョン
	CIPC CP-50144 [クロルIPC・ アラクロール] IPC・アラクロール	乳	・CIPC:イソプロピル-N-(3- クロルフェニル)カーバメート(21.5%) ・アラクロール(CP-50144):2- クロル-2,6'-ジエチル-N(メ キシメチル)アセトアニリド (21.5%) 43%	イチゴ(露地又は 露地マルチ・本園)	日産化学工業 日本モンサント
	DAC-893 [TCTP] ダクタール	水和	・ジメチルテトラクロルテレフタレート 75%	イチゴ(親株床)	昭和ダイヤモンド化学

区 分	薬 剤 名 { 種 類 名 } { 商 品 名 }	剤型	成 分 お よ び 含 有 率	対 象	委 託 会 社
野菜・花 き除草剤 (つづき)	HSW-4901 〔フェンメディファム〕 ベタナール	乳	・ 3-メトキシカーボニルアミノフェニル -N-(3'-メチルフェニル)カーバ メート 13%	イチゴ(露地: 本園)	三 共 北 海 三 共
	同 上	乳	同 上	イチゴ(親株床)	同 上
	ANK-553	乳	・ N-(1-エチルプロピル)-2,6-ジ ニトロ-3,4-キシリジン 30%	ダイコン(露地)	A N K 研 究 会 〔クミアイ化学工業〕 日 本 農 薬 〔日本サイアナミッド〕
	同 上	乳	同 上	ニンジン(露地)	同 上
	DAC-893 〔TCTP〕 ダクタール	水和	・ ジメチルテトラクロルテレフタレート 75%	ニンジン(露地)	昭和ダイヤモンド化学
	NTN-80	水和	・ 0-エチル-0-(2-ニトロ-パラ トリル)N-イソプロピル-ホスホ アミドチオエート 60%	ニンジン(露地)	日本特殊農薬製造
	SD-11831 〔ニトラリン〕 ブラナビアン	水和	・ 4-(メチルスルフォニル)-2,6-ジ ニトロ-N,N-ジプロピルアニリン 50%	ニンジン(露地)	ブラナビアン普及会 〔シエル化学〕 サンケイ化学 三 共 〔北興化学工業〕
	trifluralin 〔トリフルラリン〕 トレファノサイド乳剤	乳	・ α, α, α -トリフルオール-2,6-ジ ニトロ-N,N-ジプロピル-パラ トリル 44.5%	ショウガ(露地)	塩 野 義 製 薬 武 田 薬 品 工 業
	trifluralin 〔トリフルラリン〕 トレファノサイド粒剤 2.5	粒	同 上 2.5%	同 上	塩 野 義 製 薬
	trifluralin 〔トリフルラリン〕 トレファノサイド乳剤	乳	同 上 44.5%	ヤマノイモ(露地) (ナガイモ)	塩 野 義 製 薬 武 田 薬 品 工 業
	trifluralin 〔トリフルラリン〕 トレファノサイド粒剤 2.5	粒	同 上 2.5%	同 上	塩 野 義 製 薬

区 分	薬 剤 名 (種 類 名) (効 果 名) (商 品 名)	剤型	成 分 お よ び 含 有 率	対 象	委 託 会 社
野菜・花 き除草剤 (つぎ)	PHS-I 除草資材 〔(プロメトリン入) サゾーホーリーシートP ₈ 〕	フィ ルム	・プロメトリン：2-メチルチオ-4,6- ビスイソプロピルアミノ-S-トリア ジン(フィルム厚 0.018±0.02%) 8 g/a	ダイコン(マルチ)	三 菱 油 化 み か ど 化 工 日 本 化 薬
⑥野菜・ 花き 生育調 節剤	ヒドロキシイソキサゾール 〔(苗質向上) タチガレン粉剤〕	粉	・3-ヒドロキシ-5-メチルイソキサゾ ール 4 %	タマネギ(移植)	三 共
	ユニフェロン 〔(生育促進) ユニフェロン〕	液	・ α -トコフェロール 10^{-9} モル ・ユビキノ 8×10^{-13} モル	キュウリ(トンネル あるいはハウス)	十 條 製 紙
	31603-S (着果・成熟調節)	水和	・2-ベンズイミドイル-3-ヒドロキシ -1,4-ナフトキノ 9.0%	加工用トマト (無支柱)	塩 野 義 製 薬
	ユニフェロン 〔(生育促進) ユニフェロン〕	液	・ α -トコフェロール 10^{-9} モル ・ユビキノ 8×10^{-13} モル	トマト(トンネル あるいはハウス)	十 條 製 紙
	ヒドロキシイソキサゾール 〔(苗質向上) タチガレン粉剤〕	粉	・3-ヒドロキシ-5-メチルイソキサゾ ール 4 %	イチゴ(親株苗床)	三 共
	同 上	粉	同 上	イチゴ(子苗床)	同 上
	ヒドロキシイソキサゾール 〔(生育促進) タチガレン粉剤〕	粉	同 上	カブ(覆下)	同 上
	31603-S (花卉展開抑制)	水和	・2-ベンズイミドイル-3-ヒドロキシ -1,4-ナフトキノ 9.0%	バラ(温室)	塩 野 義 製 薬
	ジベレリン (生育抑制)	顆粒	・ジベレリン 3.1%	サツキ(露地)	日本ジベレリン 研究会 〔協和醸造工業 武田薬品工業 明治製菓〕
	同 上	錠	・ジベレリン 2.78%	同 上	同 上

区 分	薬 剤 名 { 種 類 名 } { 商 品 名 }	剤型	成 分 お よ び 含 有 率	対 象	委 託 会 社
⑦果樹関 係除草剤 (I)カンキツ	ametryne [アメトリン ゲザパックス粒剤]	粒	・ 2-メチルチオ-4-イソプロピルアミ ノ-6-エチルアミノ-S-トリアジ ン 3%	ミ カ ン 園	日 本 化 薬
	bromacil [ブロマシル デュボン・ハイパーX 水和剤]	水和	・ 5-ブロモ-3-セカンダリーブチル- 6-メチルウラシル 80%	ミ カ ン 園 (スプリンクラー 利用)	デュボン・ ファーイースト (日本支社)
	D B N [DBN カソロン水和剤]	水和	・ 2,6-ジクロロベンゾニトリル 45%	ミ カ ン 園 (スプリンクラー 利用)	兼 商
	D B N [DBN カソロン粒剤2.5]	粒	・ 2,6-ジクロロベンゾニトリル 2.5%	ミ カ ン 園	北興化学工業 兼 商
	NP-24	水和	(新合成化合物) 40%	ミ カ ン 園	日 本 曹 達
	RH-2915・D [(RH-2915)・ DCMU]	水和	・ RH-2915: (新規ジフェニルエー テル系化合物) (30%) ・ DCMU: 3-(3,4-ジクロロフェニ ル) 1,1-ジメチル尿素 (30%) 60%	ミ カ ン 園	三 洋 貿 易
	SL-55	乳	(未 公 開) 25.0%	ミ カ ン 園	石 原 産 業
	terbacil [ターバシル デュボン・ シンパー水和剤]	水和	・ 3-ターシャリーブチル-5-クロロ- 6-メチルウラシル 80%	ミ カ ン 園 (スプリンクラー利用)	デュボン・ ファーイースト (日本支社)
	U-27・267	粒	・ 3,4,5-トリブロム-N, N, α-トリ メチルピラゾール-1-アセトアミド 85%	ミ カ ン 園	日本アップジョン
(II)リンゴ	CF125 (CF125+α)	乳	・ CF125: メチル-2-クロロ-9- ヒドロキシフルオレン-(9)-カルボキ シレート ・ α: (未公開) 12.5%	牧草草生園の刈取 代用	日産化学工業
	trifluralin [トリフルラリン トレファノサイド 粒剤2.5]	粒	・ α, α, α-トリフルオル-2,6-ジニ トロ-N, N-ジプロピル-パラート ルイジン 2.5%	永久除草 (幼木・ 成木園)	塩 野 義 製 薬

区 分	薬 剤 名 (種 類) (効 果) (商 品 名)	剤 型	成 分 お よ び 含 有 率	対 象	委 託 会 社
果樹関係 除草剤 (i) 落葉果樹	A-3587 〔トリアジン系〕 カラガード水和剤	水和	・GS-13529:2-クロロ-4-エ チルアミノ-6-ターシャリーブチル アミノ-S-トリアジン(25%) ・GS-14259:2-メトキシ-4- エチルアミノ-6-ターシャリーブチ ルアミノ-S-トリアジン(25%) 50%	ブ ド ウ	日本チバガイギー
	EH-275 〔ターバシル・DCMU〕 ゾーバー水和剤	水和	・ターバシル:3-ターシャリーブチル- 5-クロロ-6-メチルウラシル (40%) ・DCMU:3-(3,4-ジクロルフェニ ル)-1,1-ジメチル尿素(39%) 79%	ブ ド ウ	丸和バイオケミカル
	D B N 〔DBN〕 カソロン粒剤67	粒	・2,6-ジクロルベンゾニトリル 6.7%	カ キ	兼 商
⑧果樹関 係生育調 節剤 (i) カンキツ	SZ-742 (摘果)	液	(未公開)	温州ミカン	三 共
(ii) リンゴ	HS-X (落果防止)	液	(未公開)	デリシヤス系	2,4-D協議会 〔日産化学工業〕 〔石原産業〕
	SiO ₂ 〔サビ防止〕 シオノックス水和剤	水和	・二酸化ケイ素 75.0%	ふ じ	塩野義製薬
⑨茶園関 係除草剤	U-27,267	粒	・3,4,5-トリブロム-N,N,α-トリ メチルピラゾール-1-アセトアミド 8.5%	茶 園	日本アップジョン
⑩桑園関 係除草剤	EDPD 〔ジクワット レグロックス〕	液	・ジクワット・ジプロミド 30%	桑 園	I . C . I 武田薬品工業 日本農薬
	G-815 〔オキサジアゾン ロンスター〕	水和	・5-ターシャリーブチル-3(2,4-ジ クロル-5-イソプロボキシフェニル)- 1,3,4-オキサジアゾリン-2-オン 50%	桑 園 飼 育	日産化学工業

区 分	薬 剤 名 { 種 類 名 } { 効 果 名 } { 商 品 名 }	剤 型	成 分 お よ び 含 有 率	対 象	委 託 会 社
桑園関係 除草剤 (つぎ)	NP-24	水和	(新合成化合物) 40%	桑 園 飼 育	日 本 曹 達
	NTN-80	水和	・0-メチル-0-(2-ニトロパラ トリル)N-イソプロピル-ホスホ アミドチオネート 60%	桑 園	日本特殊農薬製造
⑪桑園関 係生育調 節剤	ES-1 〔(脱 葉) エチレンシープ〕	(ベ レ ット 状)	・エチレンガス 5% (合成ゼオライトにエチレンガスを吸 着)	桑 園 飼 育	光 興 業 昭 和 電 工 ユ ニ オ ン 昭 和
⑫林業関 係除草剤	DPX-1108	液	・アンモニウムエチルカーバモイルホスホ ネート 42.0%	灌 木 一 般 (下刈代用)	デュボン・ ファーイースト (日本支社)
	NTN-80	水和	・0-メチル-0-(2-ニトロパラ トリル)N-イソプロピル-ホスホ アミドチオネート 60%	スギ、ヒノキ (まきつけ床、 床替床)	日本特殊農薬製造
	SK-23	水和	・1-(α , α -ジメチルベンジル)-3 -(パラトリル)尿素 80%	林 業 苗 畑	昭 和 電 工
	N-2000 (発根促進)	水和	・9-ベンジルアデニン 1%	造 林 用 苗 木	日 研 化 学
	ヒノキチオール 〔(樹勢賦活) キノゲン〕	液	・ヒノキチオール 2.0% ・カルバクロール 1.2% ・ロジン酸 0.5% ・ヒバ中性油 51.3% ・シリコンオイル 5% ・メチルアルコール 40%	アカマツ、スギ等	キ ノ ゲ ン
⑬牧野草 地関係除 草剤	SSH-36 〔アシュラム・ アイオキシニル アシュメックス〕	水溶	・アシュラム：N'-メトキシカルボニル スルファニルアמיד(Na塩) (20%) ・アイオキシニル：3,5-ジortho-ヒド ロキシベンゾニトリル(Na塩) (3%) 23%	飼 料 作 物	塩 野 義 製 薬
⑭芝生関 係除草剤	A-820・2,4-D 〔(A-820)・ 2,4PA〕	水和	・(A-820)：N-セカンダリーブチ ル-4-ターシャリーブチル-2,6- ジニトロアニリン(30%) ・2,4PA：2,4-ジクロロフェノキシ酢 酸(Na塩)(15%) 45%	コーライシバ、 ヒメコーライシバ	2,4-D協議会 〔日産化学工業 石原産業〕

区 分	薬 剤 名 { 種 類 名 } { 商 品 名 }	剤型	成 分 お よ び 含 有 率	対 象	委 託 会 社
芝生関係 除草剤 (つづき)	B-3357	水和	(新規カーバメート系化合物)	コウライシバ, ノシバ	クミアイ化学工業
	HOK-06	水和	・フェノチオール: 2-メチル-4-クロ ルフエノキシチオ酢酸-S-エチル (10%) ・ペンタゾン(B-3510): 3-イソ プロピル-2,1,3-ベンゾチアジ アジン-4-2,2-ジオキサイド(20%) 30%	コウライシバ	北興化学工業
	HOK-108 [フェノチオール・ペンタ ゾン・(S-28)]	水和	・フェノチオール: 2-メチル-4-クロ ルフエノキシチオ酢酸-S-エチル (10%) ・ペンタゾン(B-3510): 3-イソ プロピル-2,1,3-ベンゾチアジ アジン-4-2,2-ジオキサイド(20%) ・(S-28): 0-エチル-0-(3- メチル-6-ニトロフェニル)-N- セカンダリ-ブチルホスホロチオアミ デート(20%) 50%	コウライシバ	住友化学工業 北興化学工業
	HW-G3 [DCMU・CAT・ 2,4PA]	水和	・DCMU: 3(3,4-ジクロロフェニル) -1,1-ジメチル尿素(5%) ・CAT: 2-クロル-4,6-ビス(エチ ルアミノ)-s-トリアジン(10%) ・2,4PA: 2,4-ジクロロフェノキシ酢 酸ナトリウム(40%) 55%	ニホンシバ等	保土谷化学工業
	NCS	水溶	・N-メチルジチオカーバミン酸アンモニ ウム 50.0%	(目土消毒)	東京有機化学工業 三 洋 貿 易
	nitrofen [NIP 細作用ニップ粒剤]	粒	・2,4-ジクロロフェニル-4-ニトロフ ェニルエーテル 5.0%	コウライシバ, ヒメコウライシバ	東京有機化学工業 三 洋 貿 易
	R-7465 [ナプロバミド デブリノール]	水和	・2-(α -ナフトキシ)-N,N-ジエ チルプロピオンアミド 50%	ノ シ バ, コウライシバ等	R-7465研究会 [日 本 農 薬 中 外 製 薬 東 洋 グ リ ー ン ス ト ヴ ァ ー ジ ャ ン ト ー メ ン]

区 分	薬 剤 名 { 種 類 名 } { 商 品 名 }	剤型	成 分 お よ び 含 有 率	対 象	委 託 会 社
芝生関係 除草剤 (つぎ)	S-28 〔 (有機リン系) 〕 クレマート	乳	・ 0-エチル-0-(3-メチル-6-ニ トロフェニル)-N-セカンダリー アルホスホロチオアミデート 50%	コウライシバ, ヒメコウライシバ, ノ シ バ 等	住友化学工業
	simazine 〔 CAT 〕 シマジン粒剤1	粒	・ 2-クロル-4,6-ビス-エチルアミノ -s-トリアジン 1%	コウライシバ, ヒメコウライシバ, ノ シ バ, ティフトン等	日本チバガイギー
	SY-72	粒	(未 公 開)	コウライシバ 等	石 原 産 業
	SZ-741	水和	・ (H-686): 2-(N-イソプロピ ル-N-4-クロルフェニルカーボニ ル)4-クロロ-5-メチル-4-イ ソキサゾリン-3-オン (12.5%) ・ (MH): マレイン酸ヒドラジド (25.0%) ・ 2,4 PA (2,4-D): 2,4-ジクロル 酢酸 (Na塩) (12.5%) 50%	ケンタッキー又は ブルーグラス	三 共
	trifluralin 〔トリフルラリン〕 トレファノサイド乳剤	乳	・ α, α, α-トリフルオール-2,6-ジ ニトロ-N, N-ジプロピル-バラート ルイジン 44.5%	和 芝 又 は ティフトン	塩 野 義 製 薬
	W. P 〔 SAP 〕 ウィードグラス・ プレバンダー	粒	・ S-(0,0-ジイソプロピルホスホロジ チオエート)エステル-N-(2-メ ルカプトエチル)ベンゼンスルホンア ミド 11%	コウライシバ	ITT (O-M- Scott&Sons)
⑬芝生関 係生育調 節剤	SST 〔 (生育抑制) 〕 サスター	乳	・ 3'-(トリフルオロメチルスルホナミド) -P-アセトトルイダイド 24%	コウライシバ 洋 芝 類	日産化学工業

除 草 剤 使 用 面 積 一 覧 表

水 田 除 草 剤

(昭和49年3月1日現在, 日植調)

区 分	除 草 剤 名		昭 和 43年度	昭 和 44年度	昭 和 45年度	昭 和 46年度	昭 和 47年度	昭 和 48年度
	一 般 名	商 品 名						
(1) フェノキシ系								

区分	除 草 剤 名		昭 和 4 3 年度	昭 和 4 4 年度	昭 和 4 5 年度	昭 和 4 6 年度	昭 和 4 7 年度	昭 和 4 8 年度
	一 般 名	商 品 名						
水 稲 生 育 期 処 理	2,4 PA (Na)	2,4-Dソーダ塩	千ha 76.0	千ha 76.0	千ha 65.0	千ha 125.6	千ha 386.0	千ha 143.7
	2,4 PA (アミン)	2,4-Dアミン塩	221.0	188.6	178.2	146.7	128.0	159.3
	2,4 PA (エステル)水和剤			162.5	125.2	62.0	71.2	53.4
	2,4 PA粒剤	粒状水中2,4-D	233.7	232.6	222.2	179.5	174.8	185.5
	小 計		530.7	659.7	590.6	513.8	860.0	541.9
	MCP (Na)	MCPソーダ塩	39.6	48.6	34.0	19.0	19.2	22.6
	MCP水和剤	水中MCP水和剤	79.2	75.5	48.2	43.3	39.6	43.5
	MCP粒剤	粒状水中MCP	219.4	247.7	208.0	188.0	185.2	195.4
	小 計		338.2	371.8	290.2	250.3	244.0	261.5
	BPA液剤	ベスコ	7.5	7.9	7.6	4.5	7.0	0.7
	MCPB水和剤	水中MCPB水和剤	1.0	0.8	0.4	0.1	0.8	0.1
	MCPB粒剤	粒状水中MCPB	37.9	25.3	20.1	13.6	9.7	10.2
	MCPCA粒剤	マビカ粒剤					0.7	0.0
	フェノチオール粒剤	ゼロワン粒剤			0.1	0.2	0	0.1
	小 計		46.4	34.0	28.2	18.4	18.2	11.1
水 田 刈 跡 処 理 剤	(2) そ の 他							
	DCPA乳剤	スタム, デービー乳剤	54.7	26.0	18.7	14.4	13.5	32.5
	DCPA・CHCH乳剤	グラサイド乳剤	7.6	11.7	12.1	6.9	7.0	1.0
	MCC水和剤	スエップ水和剤		7.2	7.3	9.4	15.8	20.8
	ACN粒剤	モゲトン粒剤			6.1	4.8	4.7	11.8
	小 計		62.3	44.9	44.2	35.5	41.0	66.1
	2,4 PA・ATA水溶剤	カリアトール水和剤	57.7	53.8	19.8	6.4	1.6	9.7
	2,4 PA・ATA粒剤	カリアトール粒剤			22.7	16.9	0.0	0.0
	2,4 PA・ATA微粒剤	カリアトール微粒剤					0.5	5.2
	バラコート液剤	グラモキソン液剤		50.0	127.8	264.2	261.0	154.2
	小 計		57.7	103.8	170.3	287.5	263.1	169.1
植 代 理 前 後	オキサジアゾン乳剤	ロンスター乳剤					42.2	212.4
田 植 後 土 壌 処 理 剤	(1) フェノール系							
	PCP水溶剤	PCP水溶剤	81.2	78.6	78.0	50.0	11.0	5.6
	PCP粒剤	PCP粒剤	1,071.0	931.3	689.2	224.1	88.7	47.0
	小 計		1,152.2	1,009.9	767.2	274.1	99.7	52.6
	PCP・MCP粒剤	バムコン, ベアサイド粒剤	526.3	608.3	559.8	441.3	234.5	94.9
	PCP・MCPB粒剤	マノック粒剤	47.8	21.3	13.4	2.8	0.9	3.9

区分	除 草 剤 名		昭 和 4 3 年度	昭 和 4 4 年度	昭 和 4 5 年度	昭 和 4 6 年度	昭 和 4 7 年度	昭 和 4 8 年度
	一 般 名	商 品 名						
田	PCP・DCBN粒剤	PP水田除草剤	千ha 12.5	千ha 9.0	千ha 5.0	千ha 13.3	千ha 0.4	千ha 0.0
	PCP・MCPE粒剤	バーロックK, バーロックD		3.3	12.0	5.9	1.9	1.9
	PCP・DBN・MCPB#	エビデン粒剤	33.7	39.6	28.5	10.9	4.0	1.5
	PCP・MCP・DCBN#	トリサイド粒剤				7.3	0.0	0.0
植	小 計		620.5	681.5	618.7	481.5	241.7	102.2
後	PCP尿素	PCP尿素	30.0	32.7	21.8	5.3	0.0	0.0
	PCP複合肥料	PCP複合コンビなど	28.2	13.3	7.2	4.7	0.0	0.0
土	小 計		58.2	46.0	29.0	10.0	0.0	0.0
地 理 的 処 理 剤 (つづき)	(2) そ の 他							
	MCP・CA粒剤	マビカ粒剤	53.6	34.4	16.7	5.2	0.7	0.0
	NIP粒剤	ニップ粒剤	266.7	394.6	344.1	312.9	235.7	256.2
	CNP粒剤	MO粒剤	263.9	483.2	797.7	1,073.8	1,401.4	1,533.6
	CNP乳剤	NO乳剤			0.5	0.0	0.3	0.3
	プロメトリン粒剤	ゲザガード粒剤	86.6	51.8	58.1	36.7	27.1	36.6
	シメトリン粒剤	ギーボン粒剤			15.2	13.7	11.6	8.8
	DBN水和剤	カソロン水和剤	3.5	0.5	0.8	0.4	0.2	0.1
	DBN粒剤	カソロン粒剤	14.1	6.6	17.5	15.7	24.6	18.4
	DCBN水和剤	ブレフィックス水和剤	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	DCBN粒剤	ブレフィックス粒剤					1.1	0.0
	TOPE乳剤	アタックウイード乳剤			11.1	1.9	0.2	0.1
	ベンチオカーブ乳剤	サターン乳剤				9.6	14.7	21.3
	ブタクロール粒剤	マーシェット粒剤						13.2
	クロメトキシニル粒剤	エックスゴーニ粒剤						33.1
	小 計		688.4	971.1	1,261.7	1,469.9	1,717.6	19217.00
	NIP・MCP粒剤	クサカット粒剤			9.9	13.6	26.7	30.5
	MCP・CNP粒剤	アンモサイド、ハイカット#	95.3	127.3	165.3	184.9	141.3	265.0
	プロメトリン・MCPB#	ゲザエム粒剤		30.0	53.8	48.3	48.1	94.5
	ACN・MCPB・NIP#	モゲサンド粒剤					15.4	45.7
	CNP・DBN粒剤	エムロン粒剤		5.9	2.8	1.1	0.0	0.0
	CNP・クレタジン粒剤	クサキラーグリーン粒剤					0.2	0.0
	シメトリン・クレタジン粒剤	クサトリ一粒剤		1.3	4.5	6.0	4.5	1.4
	シメトリン・MCPB粒剤	バウナックスM粒剤				1.1	26.7	32.7
	シメトリン・フェノチオール#	グラキール粒剤				4.7	11.0	14.3
	MCC・MCP粒剤	クエップM粒剤		128.8	235.2	255.2	244.9	312.9
	ベンチオカーブ粒剤	サターン粒剤				2.0	7.9	16.8
	ベンチオカーブ・シメトリン#	サターンS粒剤			270.0	680.5	941.5	1,155.9
	ベンチオカーブ・CNP粒剤	サターンM粒剤				43.2	168.0	230.8
	トリフルラリン粒剤	トレファノサイド粒剤				16.6	1.0	1.1

区分	除 草 剤 名		昭 和 4 3 年度	昭 和 4 4 年度	昭 和 4 5 年度	昭 和 4 6 年度	昭 和 4 7 年度	昭 和 4 8 年度
	一 般 名	商 品 名						
田 植 後 土 壌 処 理 剤 (つづき)	トリフルラリン・MCP _{II}	トレモリン粒剤	千ha	千ha	千ha	千ha	千ha	千ha
	トリフルラリン・MCPAN _{II}	エムフラン粒剤			4.9	24.3	32.7	40.8
	モリネート・シメトリン	マメット粒剤				7.1	6.6	3.6
							41.4	105.2
	小 計		95.3	293.3	746.4	1,288.6	1,717.9	2,351.2
	BHC・プロメトリン粒剤	ゲザガード・BHC粒剤	3.2	3.1	1.0	0.0	0.0	0.0
	BHC・NIP粒剤	ドルニップ, ガンマーニップ _{II}	2.4	13.5	1.3	0.0	0.0	0.0
	BHC・MCPCA粒剤	ドルマビカ, マビガジー _{II}	3.0	2.3	0.0	0.0	0.0	0.0
	BHC・CNP粒剤	ガンマーMO粒剤	5.3	9.9	8.6	0.0	0.0	0.0
	小 計		13.9	28.8	10.9	0.0	0.0	0.0
水田	NIP尿素	尿素ニップ	2.3	0.0	1.0	0.8	0.1	0.3
	NIP複合肥料	尿素化成ニップ	0.6	0.0	1.1	1.5	0.1	0.5
	小 計		2.9	0.0	2.1	2.3	0.2	0.8
合計	合 計		3,663.8	4,244.8	4,559.5	4,691.9	5,245.6	5,690.6

畑 作 用 除 草 剤

区分	除 草 剤 名		昭 和 4 3 年度	昭 和 4 4 年度	昭 和 4 5 年度	昭 和 4 6 年度	昭 和 4 7 年度	昭 和 4 8 年度
	一 般 名	商 品 名						
一 年 生 雑 草 (一般畑作物)	(1) 雑草処理剤		千ha	千ha	千ha	千ha	千ha	千ha
	MCP(Na)水溶剤	MCPソーダ塩	10.8	12.2	10.0	1.6	6.3	7.6
	DNOC水溶剤	DNOCソーダ塩	1.6	0.8	0.6	0.0	0.0	0.0
	DCPA乳剤	スタム, デービー乳剤	54.7	48.2	34.6	28.8	26.8	35.4
	CMMP乳剤	ダクロン乳剤	0.8	1.2	0.1	2.2	4.3	2.9
	DPA水溶剤	ダウボン水溶剤	4.8	3.3	1.9	8.5	10.0	8.1
	DPA粒剤	ダウボン粒剤			10.7	0.3	0.1	0.0
	アイオキシニル乳剤	アクチノール乳剤		3.3	7.6	2.1	3.3	5.5
	DCNP水溶剤	クノリン水溶剤		0.8	1.2	2.9	6.7	3.2
	2,4PS水和剤	セス水和剤			0.6	0.0	0.0	0.0
	MDBA液剤	パンベルD液剤			0.2	0.1	0.0	0.0
	キサントゲン酸塩	デシコーン			3.7	6.8	7.0	8.3
	CMPT水和剤	セレクト水和剤				3.8	4.8	3.0
	クレタジン水和剤	クサキラー水和剤				0.1	0.3	0.0
	フェンメディウム乳剤	ベタナール乳剤				13.4	13.0	20.1
	小 計		72.7	69.8	71.2	70.8	78.8	94.1
	(2) 土壌処理剤							
	PCP水溶剤	PCP水溶剤	175.9	91.7	93.1	103.7	98.8	76.8

区分	除 草 剤 名		昭 和 4 3 年度	昭 和 4 4 年度	昭 和 4 5 年度	昭 和 4 6 年度	昭 和 4 7 年度	昭 和 4 8 年度
	一 般 名	商 品 名						
一 年 年 雄 草 (一 般 畑 作 物 (m.u.)	PCP粒剤	PCP粒剤	千ha	千ha	千ha	千ha	千ha	千ha
	DNBP液剤	ブリマージ	18.8	19.4	25.3	32.8	38.6	65.2
	DNBPA水和剤	アレチット	8.0	5.4	8.7	11.0	12.4	11.1
	DCMU水和剤	カーメックス, ダイロン	40.0	49.8	65.4	159.4	84.0	128.9
	リニュロン水和剤	アフアロン, ロロックス	19.3	27.9	23.3	52.4	53.0	104.7
	CAT水和剤	シマジン水和剤	214.0	264.7	291.8	466.9	552.0	554.7
	CAT粒剤	シマジン粒剤	32.1	44.9	63.2	63.4	42.2	90.4
	アトラジン水和剤	ゲザプリム50	9.0	12.5	24.5	27.3	33.0	27.8
	プロバジン水和剤	ゲザミル水和剤	8.0	7.3	8.5	6.7	6.0	6.0
	プロメトリン水和剤	ゲザガード50	2.0	8.8	1.0	0.0	0.0	0.0
	ジフェナミド水和剤	ダイミッド水和剤	1.0	1.1	1.4	6.1	4.0	3.1
	NPA液剤	アラナップ液剤	1.1	1.2	0.7	0.1	0.6	0.4
	PAC・BIPC水和剤	アリセップ水和剤		2.8	5.4	4.8	5.4	11.6
	レナシル水和剤	レンザー	2.0	4.9	11.7	13.6	21.0	7.5
	IPC乳剤	クロロIPC乳剤	60.5	75.6	60.4	81.2	94.0	43.1
	NIP乳剤	ニップ乳剤	10.3	17.8	21.1	20.1	21.4	12.7
	CNP乳剤	MO乳剤			0.5	0.0	0.1	0.5
	トリフルラリン乳剤	トレファノサイド乳剤	11.0	15.5	19.4	29.9	37.3	23.5
	トリフルラリン粒剤	トレファノサイド粒剤					25.0	26.7
	アメトリン水和剤	ゲザボックス50		33.5	95.5	0.0	9.0	9.8
	DBN粒剤	カソロン粒剤		16.2	0.0	0.0	2.4	4.6
	クロロクスロン水和剤	ティノーラン			0.1	0.1	0.0	0.0
	EPTC乳剤	エプタム乳剤			0.3	0.9	0.4	0.4
	EPTC粒剤	エプタム粒剤			0.9	0.9	1.3	1.9
	バーナレート粒剤	バーナム粒剤			4.3	1.7	1.1	1.2
	SAP・プロメトリン乳剤	エス乳剤	0.8	1.9	2.3	3.3	4.8	2.7
	アラクロール乳剤	ラッソー乳剤					2.0	5.2
	MCC粒剤	粒状スエップ		4.8	4.9	7.5	8.4	3.6
	IPC・DCMU水和剤	バービスアン水和剤		2.1	0.1	0.0	1.0	1.2
	IPC・リニュロン水和剤	セルビーン			6.3	5.4	0.7	0.2
	レシナル・PAC水和剤	レナバック水和剤			3.6	6.1	10.0	14.3
	クレタジン水和剤	クサキラー				0.1	0.3	0.2
	ニトラリン水和剤	ブラナビアン水和剤						1.6
	小 計		613.8	779.6	843.7	1,105.9	1,192.4	1,257.6

区分	除草剤名		昭和 43年度	昭和 44年度	昭和 45年度	昭和 46年度	昭和 47年度	昭和 48年度
	一般名	商品名						
多年生雑草・休閑地・樹園地・林地等対象	ATA水和剤	ウイダゾール水和剤	千ha 4.4	千ha 5.4	千ha 5.2	千ha 6.8	千ha 7.3	千ha 3.3
	ATA粒剤	ウイダゾール粒剤				1.2	0.0	0.0
	DPA粒剤	ダウボン粒剤					0.2	0.1
	DPA微粒剤	ダウボン微粒剤					0.3	0.1
	ブロマシル水和剤	ハイバーX水和剤	12.7	20.2	26.2	28.9	38.8	49.8
	ブロマシル粒剤	ハイバーX					0.4	1.5
	アメトリン乳剤	ゲザバック乳剤25				12.3	14.2	14.6
	ジクワット乳剤	レグロックス	36.7	37.9	49.7	51.1	64.3	71.4
	バラコート液剤	グラモキシオン液剤	136.8	289.2	400.0	344.2	522.3	788.3
	シデュロン水和剤	デュバサン			5.8	1.6	2.2	6.0
	MBPMC・MCP水和剤	ユーザック水和剤					2.0	2.5
	シアン酸塩水溶剤	シアン他	6.6	6.2	5.8	7.0	11.4	6.9
	シアン酸塩・DCMU	ゼットシアン他	12.4	6.1	7.1	3.3	9.2	6.5
	DCPA・NAC乳剤	ワイダック乳剤		11.4	17.4	25.4	17.7	18.6
	DCPA・XMC乳剤	クサカル乳剤					1.0	0.7
	ATA・DCMU水和剤	ボミカル、アブレックス		5.5	9.3	19.5	5.3	4.9
	ATA・アトラジン水和剤	ドマトール		1.0	0.9	1.2	1.6	1.7
	PCCP・DCMU粒剤	クワロン粒剤			6.4	4.0	2.4	0.1
	小計		209.6	382.9	533.3	506.5	700.6	972.0
	塩素酸塩水溶剤	クロレートソーダ他		158.5	129.5	78.4	79.8	104.4
	塩素酸塩粉剤	デゾレート粉剤他		39.9	31.3	27.8	9.7	12.5
	塩素酸塩粒剤	デゾレート粒剤他		67.8	64.7	31.1	14.9	19.6
	塩素酸塩液剤	クロシウム			11.0	0.0	0.0	0.0
	スルファミン酸塩水溶剤	イクリン水溶剤他		1.3	1.2	0.9	0.5	0.3
	スルファミン酸塩粉剤	スルカット粉剤他				1.1	0.0	0.2
	TCBA	トリバック			0.2	0.0	0.0	0.0
	PCCP・2,4,5-T	ウィーデスト			3.5	0.0	0.0	0.0
	2,4PA・2,4,5-T乳剤	ブッシュロン乳剤			2.7	1.3	0.0	0.0
	2,4PA・2,4,5-T粒剤	ブッシュロン粒剤			14.3	0.0	0.0	0.0
	2,4,5-T粒剤	ウィードン			0.4	0.2	0.0	0.0
	塩素酸塩・弗化ナトリウム	クロレートFE			1.2	0.4	0.3	0.4
	[2,4,5-T・スルファミン酸・硫酸アンモニウム]	[ブラッシュバン、イクリンエイト]			0.1	0.4	0.0	0.0
	テトラビオン液剤	フレノック液剤			0.2	0.4	0.1	0.1
	テトラビオン粒剤	フレノック粒剤			0.4	0.8	2.1	1.6
	TCTP水和剤	ダクター水水和剤				2.5	2.6	3.3
	MCCP液剤	MCCP剤					4.3	35.0

区分	除 草 剤 名		昭和 43年度	昭和 44年度	昭和 45年度	昭和 46年度	昭和 47年度	昭和 48年度
	一 般 名	商 品 名						
(きゅう)	ベスロジン乳剤	バナフィン乳剤	千ha	千ha	千ha	千ha	千ha	千ha
	アシュラム液剤	アージラン液剤					0.1	0.5
	ピクロラム	ケイビン					5.8	14.1
	DSMA・MCPP粉剤	DSCP粉剤					0.9	3.3
	DSMA・MCPP液剤	DSCP液剤				0.4	0.2	0.2
						0.2	0.5	0.5
	小 計		209.6	65.04	260.7	145.9	121.8	196.0
畑作	合 計		896.1	1,459.8	1,708.9	1,758.8	1,958.0	2,519.7
総 合 計			4,559.9	5,704.6	6,268.4	6,390.2	7,203.6	8,210.3

(財団法人 日本植物調節剤研究協会試算)

- 注) ① この統計表の算出にあたっては、各メーカーより報告された出荷数量を基とした。
 ② 使用面積の算出にあたっては、10a当り使用量の平均値を用いて換算した。
 ③ 昭和45、46年度の数値については、換算率に誤りがあったので一部訂正した。

植 調 協 会 だ よ り

③ 会議開催のお知らせ

昭和48年度秋冬作野菜・花き関係除草剤、
生育調節剤試験成績検討会

日 時：昭和49年6月27日～28日

場 所：都道府県会館（東京）

編 集 後 記

薫風にのせて、第8巻第1号を装いを新たに
し、刊行する運びとなった。本誌の編集にあ
たって、かねてより準備を進めていたが、何分
にも業務の空間をぬって編集に従事しているため、
発刊が大変おくれ、まことに申しわけなき次第
であります。

すでに野山は緑一面と化し、平野部では田植
えの最盛期となり、雑草も冬雑草から春雑草に
代わり、農家でも雑草の防除に手をやいている

に違いない。今年は石油ショックの影響で、除
草剤の生産が間に合わず、農家の手許まで届か
ず、そのためか、各地で雑草の大発生を見てい
る。そのため、止むを得ず、昔にもどって手取
り除草をしなければならなくなっている。

このような現象は、雑草防除関係者には予測
し得なかったことであるが、何れにせよ現在市
中にある薬剤を上手に活用する他はあるまい。

財団法人 日本植物調節剤研究協会
東京都港区芝西久保桜川町26番地
電話 東京(03)502-4188(代)

昭和49年5月発行

第8巻第1号

¥180(送料50)

編集人 日本植物調節剤研究協会常務理事 吉沢長人

発行人 植調編集印刷事務所 広田伸七

東京都港区芝愛宕町1-3 全国農村教育協会内

発行所 植調編集印刷事務所

電話 東京(03)436-3388番



水田除草の省力化に！

マーシェット粒剤 5

⑧マーシェット粒剤5は低濃度の成分で強い殺草作用があり、1回の散布でノビエなど水田一年生雑草のみならず多年生雑草のマツバイ、ミズガヤツリ、さらにホタルイなど広い殺草巾を示します。さらに温度差または土壌の種類などによる効果の変動がほとんどなく安定した除草効果を発揮します。効果の持続期間が長く、しかも水稲に安全です。

⑧マーシェット粒剤5は「普通物」ですから人畜にも安全で安心してお使いいただけます。他剤との近接散布も可能です。



〔種類名〕 ブタクロール除草剤

※米国モンサント社商標

— マーシェット普及会 —
三 共 株 式 会 社
日 本 農 薬 株 式 会 社
北 興 化 学 工 業 株 式 会 社
事務局 日本モンサント株式会社

除草剤の強力メンバー！

★ウリカワと一般雑草防除に —《新発売》—

モゲサント粒剤

★ノビエ・マツバイに経済的な —

ニップ^{キュー}粒剤

水稲除草剤
水田除草全般に

ニップ^{キュー}粒剤

直播・腰稲に

スタム乳剤

苗代除草に

アタックワイド乳剤

そ菜の除草に
直播・畑全般に

ニップ^{キュー}乳剤

畑作の省力除草に

畑作用ニップ^{キュー}粒剤

発売元 三洋貿易株式会社 東京都千代田区神田錦町2—11

ワンタッチでOK ロンスターシステム!

* 容器のまま散布できる水田除草剤

ロンスター[®] 乳剤

- ① ワンタッチで簡単に散布できます
- ② 成苗はもちろん、稚苗移植の除草にも最適です。
- ③ 田植前から安定した高い除草効果が持続します。



—— ロンスター普及会 ——

日産化学・北興化学

事務局 日産化学工業(株)農業事業部内
東京都千代田区神田錦町3-7-1
原体製造元: ローヌ・プーラン JP

日本列島から

ノビエ・マツバイ一掃!!



水田除草剤

マメット[®] 粒剤

マメット粒剤は、水田のノビエ、マツバイなど強
害雑草に極めてすぐれた効果があります、その上、
今までの除草剤では効果のない大きくなったノビ
エにも効き、田植後おそくまくことができるので、
労力配分がうまくいき、また、ホタルイにも効果
があります。もちろん人畜や魚には大変安全です。

三笠化学工業株式会社
福岡市天神4丁目9番1号

八洲化学工業株式会社
東京都中央区日本橋本町1-6(大和ビル)

お求めは農協で.....